

02-SI

海老澤文庫

新約聖書  
路加傳

全

耶穌降生一千八百八十年 米國聖書會社

BIBL 聖書會社

指板

二十四

# 新約聖書路加傳

明治十四年

日本 橫濱印行

横濱製紙分社新鎔鉛版

海老澤有道文庫

新約全書路加傳福音書

我儕の中に篤く信せられたる事を始より親く見て  
道よ役たる者のニ我儕よ傳し如く記載んど多の人々これ  
を手よ孰る故よ貴きテヨビロよ 我も原より諸の事を詳  
細よ考究たれば次第を爲て爾よ書おくり 爾が教られし  
所の確實を曉せんと欲り○ 五 ユダヤの王ヘロデの時よア  
ピアの班ある祭司ザカリアと云る者あり其妻ハアロンの  
裔にて名をエリサベツと云 六 共よ神の前にて義人あり凡  
て主の誠命と禮儀を虧なく行へり エリサベツ姪ふきが  
故よ彼等よ子ふし又二人とも年も老ぬ ハザカリアうの班  
次よ値て神の前よ祭司の職を行ふ時 祭司の例よ従ひ鐵

カリア 天使よ曰けるハ我すでよ年老妻もまた年邁たれは  
 何よ因てか此事あるを知ん 天使こたへて曰けるハ我ハ  
 ガブリエルとて神の前よ立者なり爾よ語てこの喜の音を  
 告ん爲よ遣されたれは 其時いたりて必き成べき我が言ふ  
 を信せざるよ因なんち瘡とありて此事の成日まで言ふ  
 と能ハじ 三民ザカリアを俟にて其殿の内よ久を異む 三ザ  
 カリア出で言ふこと能ハざりじかは彼等うの殿の内よ  
 異象を見たる事を曉たりザカリア衆人よ首を以て示し竟  
 よ瘡どあれり その職事の日満けきは家よ久を異む 三ザ  
 うの妻エリサベツ孕て隠をりしこと五ヶ月にして二五日  
 るハ主わが恥を人の中よ隠せん爲よ眷顧たまふ時ハ此の  
 後竟

カリア 天使よ曰けるハ我すでよ年老妻もまた年邁たれは  
 ザカリアよ現れしかば 十二ザカリア之を見て驚懼る十三天使  
 かれよ曰けるハザカリアよ懼るゝ勿れ爾の祈禱すでよ聞  
 たまへり爾の妻エリサベツ男子を生ん其名をヨハ子と名  
 ザカリア之を見て驚懼る十三天使  
 くべし 小十十五爾よ喜と樂あらん多くの人も亦うの生るゝよ因て  
 慢び有ん うれ此子主の前よ大るん又葡萄酒と濃酒と  
 民の多の人に主ある其神よ歸す可れば也十七彼エリヤの心  
 ど才能を以て主の先よ行ん是父の心よ子を慈はせ逆れる  
 者を義人の智よ歸せ主の爲よ新ある民を備んとあり十八ザ  
 天使

るハ我いまだ夫よ適さるよ何よして此事ある可や  
こたへて曰けるハ聖靈あんちよ臨る至上者の大能あんち  
を庇ん是故ヨ爾が生ところの聖ある者ハ神の子と稱らる  
べし 三六 それ爾の親戚エリサベツ彼も年老て男子を孕り素  
姪あき者と稱れたりしが今すでよ孕て六ヶ月よあり歟 三七  
蓋神よ於ハ能ざる事あければ也 マリア曰けるハ我ハ是  
主の使女あり爾の言る如く我よ應かし天使つひよ彼を去  
り○ 三九 當時マリア起て亟かよ山地あるユダの邑よ往ザ  
カリアの家よ入てエリサベツよ問安志たりじよ 四一 エリサ  
ベツマリアの問安を聞しかば其胎孕腹の内にて跳動たり  
ベツマリアの大聲よ呼いひけるハ女の中に

若く我よ爲り○この六ヶ月よ當ガリラヤのナザレと名  
たる邑のダビデの家のヨセフと云る人の聘定せし所の  
處女よ神よりガブリエルといふ天使を遣さきたり其處女  
の名ハマリアと云り二天使この處女よ來いひけるハ慶た  
し惠るゝ者よ主あんちと偕よ在す爾ハ女の中にて福なる  
者あり三處女その言を訝この間安ハ如何ある事ぞと思へ  
り三十天使いひけるハマリアよ懼るゝ勿れ爾ハ神より惠を  
得たり爾孕て男子を生ん其名をイエスと名べし。がれ  
大ある者と爲て至上者の子と稱られん又主たる神その先  
祖ダビデ王の位を彼よ予れば三ヤコブの家を窮ふく支配  
すべく且その國終ること有ざるべし三四  
マリア天使よ曰け

新約全書 るかでん第一章 自四十三至五十三節

て雨ハ福ある者あり亦孕る所の者も福あり  
われよ來われ何よ由てか此事を得し夫んちの間安の  
聲わが耳よ入しどき胎孕よろこびて我腹の内よ跳れり  
主の言を信せし者ハ福なり蓋主の語たまひし如く必き成  
べければ也四六マリア曰けるハ我心主を崇め我靈ハわが  
救主ある神を喜ぶ四八是うの使女の卑微をも眷顧たまふが  
故あり今よりのち萬世までも我を福ある者と稱べし四九  
是權能を有たまへる者われよ大ある事を成り其名ハ聖五  
うの矜恤ハ世やかれを畏る者よ及はんうちの臂之力を  
發して心の驕る者を散し権柄ある者を位より下し卑賤  
者のを擧五三飢たる者を美食よ飽せ富る者を徒く返らせ給ふ

アブラハムと其子孫を窮ふく憐むことを忘却して  
僕イスラエルを扶持たまへり是われらの先祖は言たまひ  
しが如あり五六  
にて已が家よ歸たりき○五七 僮エリサベツと居しこと三ヶ月ばかり  
を産り五八 うの隣里の者また親戚のもの主がエーリサベツよ  
大ある慈悲を垂たまひし事を聞いて偕よ喜べり五九 第八日よ  
及ければ彼等子よ割禮せんとて來り其父の名よ因ザカリ  
アと名んとせしよ  
アと名んとせしよ  
ベしと曰ければ六一 彼等エリサベツよ對て曰けるハ爾が親  
戚の中にハ此名を名し者ふし  
示いかよ名んと欲か問たるよ六二  
ザカリア寫字板を請て其の

名ハヨハ子と書志るし、かは皆奇めり。ザカリアの口た  
 いちよ啓て舌とけ言ひて神を頌たり。六五、うの隣里よ住たる  
 人々とあ懼ぬ。又すべて此事を徧くユダヤの山地よ傳播さ  
 れしかば、六六、聞くもの皆これを心よ藏て此子ハ如何ある者よ  
 か成んと曰り。偕主の手かれど共よ在き。六七、父ザカリア聖靈  
 よ感さき預言じて曰けるハ、六八、主あるイスラエルの神ハ讀  
 み角のを其僕ダビデの家よ挺たまへは也。六九、われらの爲よ拯救の  
 美べき哉。これ其民を眷顧て贖を爲し。我儕の爲よ拯救の  
 者の口を以て言たまひしが如し。七十、古より聖ふる預言  
 我儕を惡む者の手より脱す救なり。七一、即ち我儕を敵てきよ  
 す。祖アブラハムは施し又うの聖約を忘じど也。七二、此ハ仁惠を我儕の先  
 祖アブラハムは施し又うの聖約を忘じど也。是れ我儕の先祖アブラハムは  
 は施し又うの聖約を忘じど也。是れ我儕の先祖アブラハムは

ムよ立し所の誓よして。七四、我儕を敵の手より救ひ我儕の生  
 涯を聖と義よ於て懼ふく主よ事しめんと也。七五、我儕を敵の手より救ひ我儕の生  
 ハ至上者の預言者と稱られん蓋ふんち主よ先ちて行うの  
 路を備んと爲はあり。七六、神の深き矜恤よ賴るの罪を赦され  
 て救せん事を其民よ示さんため也。七七、神の深き矜恤よ賴るの罪を赦され  
 光上より幽暗と死蔭よ住る者を照し我儕の足を導きて。七八、うの矜恤よ賴るの罪を赦され  
 平康ある路よ至せんとて臨めり〇。八一、斯て嬰兒ハ漸成長し  
 精神ます。八二、強健にしてイスラエルよ顯るゝ日の日まで野の  
 よ居り。八三、當時天下の戸籍を査る詔命カイザルアウグストよ  
 り出たり。この戸籍調査ハクレニオスリヤを管理し時の

初次よ行はれたりし也。人みふ戸籍よ登んとて各うの故邑よ歸たり。四ヨセフもダビデの宗族また血統なきは戸籍よ登んとて已よ孕る其聘定の妻マリアと共にガリラヤの邑ナザレより出てユダヤよ上りダビデの邑ベツレヘムといふ所よ至きり。六此よ居て産期満ければ七冢子を生うきを布よ裏て槽よ臥せたり此ハ客舎よ彼等の居處なかりしが故なり○八近傍よ羊を牧もの有けるが野よ居て夜間うの群を守たりしよ九主の天使きたりて主の榮光からを環照ければ牧者おほいよ懼たり。十天使これよ曰けるハ懼ること勿れわれ萬民よ闢りたる大なる喜の音を爾曹よ告べし十一うれ今日ダビデの邑よ於て爾曹の爲よ救主うま

れ給へり是主たるキリストあり十二爾曹布にて裹じ嬰兒の槽よ臥たるを見ん是うの徵なり十三たらま倏ち衆の天軍あらはれ天使と共よ神を讚美て曰けるハ十四天上ところよハ榮光神にあれ地よハ平安人よハ恩澤あれ十五天使等かれらを離て天よ行ければ羊を牧もの互よ曰けるハ率ベツレヘムよゆき主の示し給へる其有し事を見んとて十六急ぎ至りマリアとヨセフまた槽よ臥たる嬰兒よ尋遇り十七既よ見て此子よつき天使の語じ事を傳播ければ十八聞者のみふ羊を牧者の語つゝ事きミタリアハ凡て是等の言を心よ記て思ひ行ふべきじぬ羊を牧者うの見聞せる所みふ己よ語し所の如あるにより神を崇かつ讚美て返れり○三子よ割禮を行ふべき

八日の日いたりければ其いまだ胎よ寓さる先よ天の使者の稱し如く名をイエスと稱たり○  
 モーセの律法よ循ひて潔の日滿ければ嬰兒を携て主よ獻んが爲エルサレムよ上れり  
 三三是主の例よ初よ生るゝ男子ハ主の聖者と稱べし  
 と錄されたるが如し三四また主の律法よ班鳩一隻あるひハ  
 雉一隻を獻ふべしと言ふよ循ひて祭を行ん爲あり○四五  
 働エルサレムよシメオンと云る人あり斯人ハ義かつ散あ  
 りてイスラエルの民の慰められん事を俟る者あり聖靈ろ  
 の上よ臨り二六また主のキリストを見ざる間ハ死じと聖靈ろ  
 にて示さる二七かれ聖靈よ感じて神殿よ入り両親ろの子イ  
 エスを律法の例よ循ひて行そんと携來りしよ二八シメオン

嬰兒を抱き神を讚美いひけるハ二九主よ今うの言よ從ひて  
 僕を安然よ世をほ逝せ給ふ三十我目すでよ萬民の前よ設た  
 まひし救を見たり三一これ異邦人を照さん光あり三二また爾  
 の民イスラエルの榮あり三三その父母ハ嬰兒よ就て語る事  
 を奇をれり三四又シメオン彼等を祝て其母マリアよ曰ける  
 ハ此嬰兒ハイスラエルの多の人の頽て且興らん事と誹駁  
 を受ん其號よ立らる三五こき衆の心の念の露れんが爲あり  
 又剝ふんぢが心をも刺透べし〇三六アセルの支派バヌエル  
 の女アンナと云る預言者あり彼ハ甚老邁あり其處女あり  
 りしとき夫よ適て七年ともよ居たり三七この老女ハ齡おほ  
 よろ八十歳の嫠ありしが殿を離き夜も晝も斷食と祈禱

新約全書 るかでん第二章 自卅八至四十七節

十四

を爲て神よ事ふ 三八  
此時この老女も側よ立て主を讃美し亦 三九  
エルサレムにて贋あがなひを望る凡の人に此子の事を語れり○  
主の律法よ循ひて悉く竟ければガリラヤの己が邑ナザレ  
よ歸たり四十よの其子やく成長して精神強健よ知慧みち神の恩 一  
寵うの上よ臨り○四一儲さてうの兩親毎年よ逾越の節筵いはひエル  
サレムよ往しがよけられ四二彼の十二歳の時また節筵いはひの例よ循ひエ  
ルサレムよ上れり四三節筵いはひの日卒て返往けるよ其子イエス  
エルサレムよ留りぬ然るよヨセフと母これを知あら四四同行  
人の中よ在あらんと意ひ一日程を行て親戚ゑんせき知音あらわの者よ尋たづ四五  
しが遇ざりければ彼かれを尋たづてエルサレムよ返り四六三日かづかの  
のち殿にて遇かれ教師けうしの中よ坐し且聽かつきかつ間とひねたり四七聞きく

者ものをあ其智慧さとと其應對こたへとを奇アヤとせり兩親おとここれを見て駭ちどろ  
き母はかれよ曰いひけるハ子こよ何なぞ我儕われらよ如シ此ナ行なたるや雨なんぢの父ち  
と我われと憂うれて雨なんぢを尋たづねたり四九イエス答こたへけるハ何な故にわれを尋たづねる  
や我われひ我父わがちの事を務つさむべきを知あらざる乎か五十然され此ゆゑ兩親おとこハ其語うのかたれる  
事ことを曉さゞら五伊エスこれと共ともに下くだりナザレに歸かへりて彼等かれらに順よはひ  
ひ居あれり其母はこれら凡すべの事を心こころに藏くら五三イエス智慧ちゑも齡おたが  
も彌增いやまきり神かみと人ひととに益愛ますくあいせられたり  
ユダヤの方伯つかさとありヘロデハガリラヤの分封わせの君きみと爲なれり  
ユダヤの方伯つかさ及およびテラコニテの地ちの分封わせの君きみと爲なれり  
其兄弟きょうだいピリポハイツリア及およびテラコニテの地ちの分封わせの君きみと爲なれり  
ありルサニアハアビレ子この分封わせの君きみと爲なれり  
アナンナスアナンナスと

カヤバ 祭司の長と爲たりし時ザカリアの子ヨハ子野に居て神の命令を受けて赦を得させんが爲よ悔改のパブテスマを宣傳たり者イザヤの言を載たる書ヨ野よ呼る人の聲あり云く主の道を備ろの徑を直せよ五までの谷ハ埋られ諸の山崗ハ夷られ屈曲たるハ直く崎嶇ハ易せられ六人々ミ神の救を見る衆人ヨハ子曰けるハ嗚呼蝮蛇の裔よ誰が爾曹よ來らんとする怒を避け事を告しやハ然バ悔改よ符る果を結ぶれし爾曹心よ我儕が先祖ヨアブラハム有と意こと勿われ爾曹よ告ん神ハ能この石をアブラハムの子と爲しむべじ

九今や斧を樹の根よ置る故よ凡て善果を結きる樹ハ伐れて火よ投入らるゝ也十衆人ヨハ子よ問て曰けるハ然は我者よ分與よ食物を有る者も亦然すべし十一稅吏もパブテスマを受んとて來り曰けて曰けるハ二の衣服を有る者ハ有ぬ問て曰けるハ定例の稅銀の外よ多く取ること勿れ十四兵卒もパブテスマを有ぬ問て曰けるハ何を爲べきか十五我儕ハ何を爲べきや答て曰けて曰けるハ何を爲べきか十六我儕ハ何を爲べきや答て曰けて曰けるハ然は我と爲べし〇十七民懷望し時されば衆人みふ心よヨハ子之よ答いひけるリストあるや否と付度たりしよ十八ヨハ子をキリヌトあるハ水を以てパブテスマを爾曹よ施へり我より能力あ

る者きたらん我ハ其履帶を解にも足キ彼ハ聖靈と火を以てバブテスマを爾曹よ施はん十七手にハ箕を持て其禾場を潔め麥ハ斂て其藏にいれ穀ハ滅ざる火にて焼べし十八子また多端を以て勸をあし福音を民よ宣傳たり十九さて分封の君あるヘロデろの兄弟ビリボの妻ヘロデヤの事および行ふ所の凡の惡事をヨハ子よ責られければ二十猶も惡事を加へヨハ子を獄よ囚たり二十二民みあバブテスマを受けるヨイエスも亦バブテスマを受て祈るとき天ひらけ三聖靈は鶴の如き狀にて其上よ降り又天より聲あり云あんちハ我愛子わが喜ぶ所の者あり〇三時ヨイエス年おほよ三十四にして福音を宣始む人々ヨセフの子と意れ給へりヨセ

フの父ハヘリ	二四 のち	其父ハマツタテ	二四 のち	其父ハレビ	二四 のち	其父ハメルキ	
其父ハヤンナ	二四 のち	其父ハヨセフ	二五 のち	其父ハマタテヤ	二四 のち	其父ハアモ	
ス其父ハナオム	二四 のち	其父ハエスリ	二四 のち	其父ハナムガイ	二六 のち	其父ハアモ	
アツ其父ハマタテヤ	二四 のち	其父ハセメイ	二四 のち	其父ハヨセフ	二六 のち	其父ハユト	
ダニモ其父ハヨハンナ	二四 のち	其父ハレサ	二四 のち	其父ハゼルバベル	二四 のち	其父ハユト	
シアテル其父ハヨシリ	二四 のち	其父ハメルキ	二四 のち	其父ハアツデ	二四 のち	其父ハユト	
コサム其父ハエルモダメ	二四 のち	其父ハエル	二五 のち	其父ハヨセフ	二四 のち	其父ハマ	
エリエセル其父ハヨオレム	二四 のち	其父ハマツタテ	二四 のち	其父ハヨセフ	二四 のち	其父ハマ	
其父ハシメオン其父ハユダ	二四 のち	其父ハマツタテ	二四 のち	其父ハヨセフ	二四 のち	其父ハマ	
父ハエリアキム	三一 のち	其父ハユダ	二四 のち	其父ハヨセフ	二四 のち	其父ハマ	
タツタ其父ハナタン其父ハダビデ	三一 のち	其父ハメレア	二四 のち	其父ハマイナ	二四 のち	其父ハマ	
父ハエリエサイ其父ハエツサイ	三一 のち	其父ハヨナ	二四 のち	其父ハヨナ	二四 のち	其父ハマ	

ハオベデ其父ハボアズ其父ハサルモン其父ハナアツン  
 其父ハアミナダブ其父ハアラム其父ハエスロン其父ハバ  
 レス其父ハユダ三四其父ハヤコブ其父ハイサク其父ハアブ  
 ラハム其父ハテラ其父ハナコル三五其父ハイサルク其父ハアブ  
 ガヲ其父ハバレク其父ハヘベル其父ハサラ三六其父ハカイ  
 ナン其父ハマトサラ其父ハヘセム其父ハノア其父ハラメク  
 三七其父ハエノク其父ハヤレド其父ハラメク  
 ダムアダムハ即ち神の子あり  
 第四章 僧イエス聖靈よ感されてヨルダンより歸り靈よ導  
 かれ野よ適てニ四十日惡魔よ試らる此諸日ふよをも食くらは  
 十一  
 甘一

四十日畢てのち餓たり三惡魔かれよ曰けるハ爾もし神の  
 子あらば此石よ命じてパンと爲せよ四イエス答けるハ人  
 たり五惡魔また彼を高山よ携ゆき一瞬間よ天下の萬國を  
 示して六日けるハ此をべての權威と榮華を爾よ予ん我こ  
 きを委任たれば我が欲む者よ非キ唯神の凡の言よ由ど錄され  
 前よ拜跪は悉く爾の属とあらんハイエス答けるハ人  
 よ我後よ退け獨主たる爾の神よ拜跪これよのみ事べしと  
 錄されたり九惡魔またイエスをエルサレムよ携ゆき聖殿や  
 の項に立て曰けるハ爾もし神の子ならば此より已が身を  
 投よ十うハ神その使者等よ命じて爾を護せん十一  
 十二  
 甘一

我を遣せり イエス書を捲うの役者よ予へて坐しければ  
會堂よ在者みる目を注て視ふせり 二 イエス彼等よ曰ける  
ハ此錄れたる事ハ今日あんちらの前よ應り 三 羣衆かれを稱  
讀うの口より出る所の恩恵の言を奇み曰けると此ハヨセ  
フの子よ非や 三 イエス彼等よ曰けるハ爾曹かあらき我よ  
諺を引て醫者みづからを醫せ我儕が聞し所の力ベナウン  
にて行し事を自己の家郷ある此土にも行べしと云ん 二四ま  
た曰けるハ我まことよ爾曹よ告ん預言者うの家郷みてハ  
散重るゝ者よ非や 一五 われ誠を以て爾曹よ告んエリヤの時三  
年と六ヶ月天どちて徧地おほいある饑饉ありし其時イス  
ラエルの中よ多の嫠ありしかば 二六 エリヤハ其一人へだよ

石に觸ぎるやう彼等手にて扶へしと錄さる  
るハ主たる爾の神を試む可らきと云おけり  
試みる畢て暫く彼を離たり  
彼等が會堂にて教を爲すべての人々よ榮を得たり○  
の長育し所あるナザレよ來り常例の如く安息日よ會堂よ  
入て聖書を讀んとて立ければ  
ヨイエス其書を展示て斯錄きたる所を見出せり  
れよ在す故よ貧者よ福音を宣傳ん事を我よ膏沃て任じ  
心の傷る者を醫し又囚人よ釋ん事と轉者よ見させん事を  
示し又壓制らるゝ者を縱ち  
主の禧年を宣播んが爲る  
十二 イエス 答け  
十三 悪魔この誘  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

ち神の聖なる者あり  
こと勿れ其處を出よ惡鬼ついよ其人を衆の中よ付し傷き  
して出云々人みふ駭き互よ語いひけるハ權威と能力を有  
て汚たる鬼よ命せしかば出去り是いかなる道ぞや是も  
於てイエスの聲名あまねく此四方の地よ揚り○  
ス會堂を出てシモンの家よ入じよシモンの妻母おもき熱  
病を患ひ居たりき云々衆人これが爲よイエスよ求ければ  
傍よ立て熱を斥しよ熱退けり婦たちよ起て彼等よ事たり  
四十日の入とき各様の病を患たる者をもてる人々みふ其  
きイエスよ携來ければ一々上の上よ手を按て醫せり  
鬼も亦多くの人々を出さり喊叫て爾ハ神の子キリストあり

三五 イエス之を責て曰けるハ聲を出す  
三六 イエス之を責て曰けるハ聲を出す  
三七 また預言者エリシヤの時よイスラエルの中よ多の癪  
者ありしかど其一人だよ潔られき惟スリヤのナーマンの  
み潔らきたり 二八 会堂よ在し者これを聞いて大よ憤ほり 二九 起  
てイエスを邑の外よ出し投下さんとて其邑の建たる山の  
壁にまで曳往り 然よイエス彼等の中を徑行て去ぬ 三〇  
リラヤのカペナウンと云る邑よ至りて安息日おどよ衆人  
を教しよ 三一 うの言權威有ければ衆人の教よ駭けり ○ 三二  
會堂よ汚たる鬼の靈よ憑れたる人あり大聲よ喊叫いひけ  
るハ 三四 噩ナザレのイエスよ我儕あんちと何の與あらんや  
爾きたりて我儕を喪すか我あんちハ誰ある乎を知するは

と云り然よ之を斥て言ふことを容ざりき惡鬼うのキリス  
トあるを識はあり四二明旦イエス出て人ふき處より往ければ  
衆人尋來て其離去ことを止む四三イエス曰けるハ我また他  
の郷村にも神の國の福音を宣傳するを得て蓋われ之が爲  
よ遣さるれば也四四斯てガリラヤの諸會堂にて道を宣傳た  
り  
**第五章**衆人神の道を聽んじて擠擁ける時イエスが子サレ  
の湖の濱に立てニ磯よ二艘の舟あるを見る漁の者ハ舟を  
離て網を洗をれり三其の一つハシモンの舟ありしがイエス  
之よのり請て岸より少許はあれ坐して舟中より衆人を教  
ふ  
**四五**教竟てシモンよ曰けるハ澳へいで網を下して漁れ五

者ありイエスを見て俯伏ねがひ日けるハ主もし聖旨ヨ肯  
ときハ我を潔ふし得べし十三イエス手を伸かれよ接て我心  
ヨ肯り潔ふれど曰ければ直ヨ癪病いえたり十四イエス彼を  
戒めて曰けるハ人ヨ告ること勿れたゞ往て己を祭司ヨ示  
かつ潔られし爲ヨモ一セが命せし如く獻物をあし證據を  
彼等ヨ爲よ十五然ともイエスの聲名ます十六揚りて許多の  
人々或ハ教を聽んどし或ハ病を醫れんとて集り來れり  
イエス常ヨ人なき處ヨ退きて祈り給ひき○十七あるひ  
教を爲せる時パリサイの人と教法師ガリラヤの諸郷ユダ  
ヤエルサレムより来て此ヨ坐し以彼等の病を醫すべき主  
の能顯はれたり十八あるひとちゆうぶ  
或人癱瘋を患たる者を牀ヨ載て昇來り

之を家に入イエスの前と置んと欲も群集にて昇入べき方あかりければ屋上と升り瓦を取り除て其人を牀のまゝ衆人の中へ縋下しイエスの前と置り二三イエスうの信あるを見て患者よ人よ爾の罪赦さると曰ければ三三學者とパリサイの人々心よ思出けるハ此製漬ことを言者ハ誰ぞ神より外よ誰か罪を赦すことを得ん三三イエスうの意を知て答り外にけるハ何を爾曹心の中よ論ぜるや三三爾の罪赦さるといふと起て行と言と孰か易き二三四人との子地にて罪をゆるすの權威あることを爾曹よ知せんとて遂と曰ければ二三四癱瘋の人よるすの權威あることを告おきて牀をとり家よ歸れと曰ければ二三四の我なんぢよ人衆の前よて直と起て臥居たる牀をとり神を崇て己が家

なすバリサイの弟子も亦然り然るに雨の弟子飲こと食こと  
とを爲すハ何故ぞ 三四 イエス曰けるハ新郎の朋友うの新郎  
と一處よ居間ハ之に斷食あさしむる事を得んや 三五 將來新  
郎と別るゝ日いたらん其日にハ斷食すべきなり 三六  
て曰けるハ新衣を裁取りて舊衣を補ふ者あらじ若然せば  
譬を以 三七 新衣をも壞ひ且新より取りたる布ハ舊ものと合せ  
た新酒を舊革袋よ盛る者あらじ若志かせは新酒ハ其  
袋をはりさき漏出かつ革袋も壞るべし 三八  
新酒ハ新革袋よ盛べき者ぞ斯てころ兩あがら存あれ 三九  
新酒ハ新革袋よ盛べき者ぞ斯てころ兩あがら存あれ  
刻よ新酒を欲者ハ有じ是舊ハ尤も好と云はなり 四十  
超越節の二日ののち首の安息日イエス麥の畑を徑

よ歸ぬ二六ひとぐ衆人みあ駭きて神を祟かつ大よ畏懼て曰けるハ  
我儕今日奇異ふる事を見たり○二七こののら此後イエス出てレビと  
云る稅吏の稅關よ坐し居けるを見て我よ從へと曰ければ  
云々レビ一切を捨おき起て從へり二八元レビ已の家よてイエス  
の爲よ豊盛ある筵を設しよ稅吏また他の人々も共よ筵よ  
坐したる者多かりければ三十九のところ其所の學者とバリサイの人イ  
エスの弟子よ怨言いひけるハ爾曹稅吏また罪ある人々と  
共に飲食するハ何故ぞ三一イエス答て曰けるハ康強ある者  
ハ醫者の助を需き惟病ある者これを需む三二わが來るハ義  
人を召く爲よ非き罪ある人を召て悔改させんが爲あり三三

よ間ん安息日にに善よを行なすと惡あくを行なすと又生なまを救すくると穀こと孰なを  
か行なべき十遂つひよ衆人ひきぐを環視みまはて其人ひとよ手てを伸のべよと曰いひければ  
彼かれうの如ごせしよ手てするはち愈いはて他のほかの手ての如ごくなきり十一彼かれ  
等ら大おほいよ怒いかりて如何いかよイエスイエスを處あさんと互たがひよ議かたりあへり〇十二當時ところ  
イエスイエス祈いのり禱の爲ためよ山やまよ往ゆきて終夜神よがらかみよ祈いのりれり十三夜明よあけてイエ  
スイエス弟子しを呼よびうの中うちより十二人じふにんを選えらて之これを使徒あしとと稱なづく十四卽すなは  
ちベテロカブタと名なづたまひしシモントカブタの兄弟きわいアンデレ及おほヤコブカブタ  
ビヨハ子こビリボカブタとバルトロマイカブタ十五マタイカブタとトマスアルバカブタ  
イの子こなるヤコブカブタとゼロテカブタと云いへるシモントカブタ十六ヤコブカブタの兄弟きわい  
のユダカブタとイスカリオテカブタのユダカブタあり此このユダカブタハイエスイエスを賣わだたカブタ  
る者ものなり十七イエスイエス是等これらと共ともよ下くだて平たいらかある地ところよ立たしよ許わほ

行しよ其弟子夢の穂を摘これを手にて搏くらひしかば  
或パリサイの人かれらに曰けるハ爾曹安息日は行まじき  
事を行ハ何故ぞ三イエス答て曰けるハダビデおよび從よ  
在し者の饑しひき行たる事を未だ讀さる乎即ち神の殿  
よ入た祭司の外ハ食まじき供物のパンを取りて食かつ從  
よ在し者にも予たり五又曰けるハ人の子ハ安息日にも主  
たる也○六また一の安息日はイエス會堂に入て教ふ此よ  
右の手枯たる人ありければ七學者とパリサイの人イエス  
これを安息日は醫あらんかど窺ひぬ蓋かれを訴んと欲は  
ありハイエスの意を知て手あへたる人よ起て中よ立よ  
と曰ければ其人おきて立りイエス曰けるハ我ふんぢら

多くの弟子と夥しき人々ユダヤの四方またエルサレム及ツ  
 ロシドンの海邊より來集りて或ハ其教を聴んどし或ハ病  
 を醫されん事を冀へり。また惡鬼よ難されたる者あり咸  
 ク醫されたり。衆みふイエスよ拘らんとせり是能力の其の  
 身より出て彼等を咸く醫せは也。○イエス目を擧弟子を  
 見て曰けるハ爾曹貧者ハ福あり神の國ハ即ち爾曹の所有  
 されは也。爾曹いま餓たる者ハ福なり飽ことを得べけれ  
 ばあり爾曹いま哭者ハ福あり笑ことを得べけれ。三人  
 の子の爲よ人なんぢらを憎ににくまた絶け詈り爾曹の名を惡し  
 として棄ふは爾曹福なり。其日にハ欣び踊れ爾曹天よ於  
 て賞賜大されは也。うの先祖が預言者よ行たりしも是の如  
 し。

二四爾曹富者ハ禍ある哉すでよ安樂を受はあり  
 者ハ禍なるか。あ餓んとすればあり爾曹いま笑者ハ禍なる  
 かな哀み哭んと爲はあり。凡の人ふんぢらを譽ふは爾曹  
 祸ある哉うの先祖が偽の預言者よ行たりしも是の如し  
 我よ聽どころの爾曹に告ん其仇を愛し爾曹を憎者を善し。二五  
 詛者を祝し虐遇者の爲よ祈禱せよ。二六凡の人ふんぢの頬の右方  
 を撃は亦左方の頬を向よ爾の外服を奪は裏衣をも禁され  
 三十凡て爾よ求は之よ與へ爾の物を奪は其をまた索る勿れ  
 三一己人よ施れんとする事ハ亦人にも其如く施よ。二七己を愛す  
 せる者を愛するハ何の賞賜あらんや惡人にても己を愛す  
 己よ善を行者よ善を行ハ何の賞賜あら

新約全書 るかでん第六章 自卅四至卅九節

卅六

んや惡人もまた是の如く行ふり  
おもふ人よ借ハ何の賞賜あらんや惡人も其ほどく償を得  
んとて亦惡人よ借あり 三五 雨曹仇を愛し又善をあし何をも  
望きして借與よ然ば其賞賜そ大あり 且至上者の子と爲ん  
夫上者ハ恩を忘るゝ者および不善者にまで慈愛を施せば  
なり三六 はるは爾曹の父の憐憫の如く亦憐憫を爲べし 人を  
也 是故よ爾曹も議れ 人を罪する事と勿れ然ば爾  
議こと勿れ然ば爾曹も議れ 人を恕せ然ば爾曹も恕さるべし  
曹も罪せられ世人を恕せ然ば爾曹も恕さるべし 人よ與  
よ然ば爾曹も予らるべし彼等量を嘉して搖いれ撼いれ溢  
るゝ迄にして爾曹の懷よ納ん爾曹量る所の其量にて亦人  
よ量るべし○ 三元 また壁を彼等よ曰けるハ聲ハ聲の相者を

主よ主よと稱るや  
凡て我よ就り我言を聞て行者を譬て  
雨曹よ示さん  
四八 其人ハ家を建るよ土を深く堀て基礎を磐  
上よ置るが如し洪水のとき横流うの家を衝とも動すこと  
あたは能是基礎を磐上よ置はなり  
四九 聽て行ひきる者ハ基礎なく家を土の上よ建たる人の如し横流これを衝ときハ其家  
たゞちよ傾れ其頽壞また甚だし  
しよニある百夫の長うの愛する僕やみて死ばかりありければ  
助け給んことを求り四かれらイエスの事を聞くユダヤの長老等を遣して來り僕を  
ハ此事を求る人ハ善人なり 五わがたみを愛し我儕の爲よ會堂

を建たり 六イエス彼等と共よ往て既や其家よ近けるとき  
百夫の長朋友を遣して曰せけるハ主よ自己を勞動こと勿  
れ我が家裏よ入奉るハ憚多し 七ゆゑ故よ我ふんぢの前よ出も  
亦憚あり第一言を發たまハぐ我僕ハ愈ん へ蓋われ人の權  
威の下よ屬る者あるよ我下よ亦兵卒ありて此よ往と命は  
往かれよ來ど命は來る我僕よ之を行と命は即ち行が故な  
り イエス聞て之を奇み從へる人々を顧て曰けるハ我な  
んちらよ告んイスラエルの中よても未だ斯る篤信よ遇ざ  
りき遣されたる者家よ歸て病たりし僕を見は已よ全快  
をなせり〇 十翌日イエスナインと云る邑よ往けるよ許  
の弟子および許多の人々も共よ往り十二邑の門よ近づきし

もの者ハ爾あるか亦われ「他よ俟べきか」此時イエス多の疾  
あるひハ病および惡鬼よ憑たる者を醫し且おほくの醫よ  
見ることを賜たり<sub>三</sub>イエス彼等よ答曰けるハ爾曹が見と  
ころ聞ところをヨハ子よ往て告よ夫瞽者ハ見跛者ハ行み  
顛者ハ潔り聾者ハきく死し者ハ復活され貧者ハ福音を聞  
せらる<sub>二三</sub>我爲よ蹟かざる者ハ福あり<sub>四</sub>ヨハ子の使者  
さりし後イエスヨハ子の事を衆人よ曰けるハ何を見んと  
て野よ出しや風よ動さるゝ葦ある乎然は爾曹ふよを見  
んとて出しや美服を衣たる人あるか文繡を衣て奢る者  
ハ王の宮よ在然は何を見んとて出しや預言者あるか然  
われ爾曹よ告ん是預言者よりも卓越たる者あり<sub>二七</sub>うれ爾よ

とき昇出さるゝ死人あり其母ハ嫠にて此ハ獨の子あり邑  
の人々多これよ伴ふ十三主嫠を見て憫み哭ふかれと曰て  
近より其櫛よ手を按ければ昇る者止れりイエス曰け  
るハ少者よ我あんぢよ命おきよ十五死たる者起て且言ひ始  
むイエス之を其母よ予せり十六衆人みる懼て神を祟りひけ  
るハ大ある預言者われらの中よ興る神うの民を眷顧たま  
へり十七イエスの此聲名ユダヤの全國また偏く四方よ揚り  
ぬ○十八ヨハ子の弟子すべて是等の事を彼よ告ければ十九ヨ  
ハ子二人の弟子を召て言遣しけるハ来るべき者ハ爾ある  
か亦われら他よ俟べき乎二十うの二人イエスよ來り曰ける  
ハバテスマのヨハ子我僻を爾よ遣して言しむ來るべき

先ちて道を備る我使者を爾の前より遣んと錄されたるハ即ち此あり二元我あんぢらよ告ん婦の生る者のうち未だパブテスマのヨハ子より大ある預言者ハ無されど神の國の至微者も彼よりハ大ある也二九ヨハ子よ聞る庶民また稅吏ハ其のバブテスマを受て神を義とせり三十パリサイの人また教法師ハ其バブテスマを受て自ら暴ひて神の旨よ背たり三一されば此代の人々を何よ比へ又何よ譬んや三二わらべ童子市に坐し互に呼て我箇笛ふけとも爾曹踊ぞ悲歌をすれども爾曹哭ぞと云ふ似たり三三蓋バブテスマのヨハ子來りてパンをも食せ酒をも飲されは惡鬼よ憑たる者ありと爾曹いへり三四人の子きたりて食ふ事をし飲ことを爲はまた食を嗜み酒を

好みの人稅吏罪ある人の友なりと爾曹いへり然と智慧ハ智慧の子に義と爲らる〇三六ある或パリサイの人イエスを請て共よ食せん事を願ければイエスパリサイの人家の家に入て食よ就り三七中よ惡行を爲る婦ありけるがイエスがパリサイの人の家よ坐せるを知て蠟石の盒よ香膏を携來り元イエスの後にたち足下よ哭き涙にて其足を濡し首の髪をもて之を拭かつ其足よ口を接また香膏を之よ抹り三九イエスを請たるパリサイの人これを見て心の中よ謂けるハ此人もし預言者ふらは拘し者ハ誰ある乎また如何ある婦此人を知ん此婦ハ惡行を爲る者あり四十イエス之よ答て曰けるハシモン我あんぢよ言事あり答けるハ師よ言たま

イエス曰けるハ或債主ヨ一人の負債人ありて一人ハ金五百一入ハ五十を負しよ償方あかりければ債主この二人を免たり然は二人の者うの債主を愛すること孰か多き我よ聞せよシモン答けるハ我おもふよ免るゝ事の多き者あらんイエス曰けるハ爾が意ところ違ざる也遂よ婦を顧みてシモンよ曰けるハ爾が意ところ違ざる也遂よ入に爾ハ我足に水を給此婦ハ涙にて我足を濡し首の髪をもて拭り爾ハ我よ口を接此婦ハ涙にて我足を濡し首の髪をもて拭り爾ハ我首よ膏を抹此婦ハ我足をもて拭り我足よ口を接て己き爾ハ我首よ膏を抹此婦ハ我足よ香膏を抹り是故よ我あんちよ言ん此婦の多の罪ハ赦れたり之よ因て其愛も亦多なり赦るゝこと少き者ハ其愛

も亦少し是よ於て其婦よ曰けるハ爾の罪赦さる同よ坐せる者とも心の中よ謂けるハ此人ハ是何人なれば罪をも赦す乎五十イエス婦よ曰けるハ爾の信あんちを救り安然にして往第八章此後イエス郷邑を周遊て神の國の福音を宣傳ふ十

二の弟子も偕よ從ひぬニまた前よ惡鬼を患たりし者病を瘡れたる婦等を從ひたり即ち七の惡鬼を逐出されたるマグダラと稱マリア又ヘロデの家令クーザの妻ヨハンナ又スザンナ此ほか多の婦ありて皆うの所有を以てイエスよ供事たりき○衆の人々諸邑より出てイエスの所よ集りければ譬をもて曰り五種まく者種を播んとて出ぬ播ると

き路旁よ遣し種あり踐踏られ且天空の鳥これを食へり  
 また石上よ遣し種あり萌出て槁たり是潤ふきが故あり  
 また棘の中よ遣し種あり棘も同よ生長て之を蔽り  
 よきら沃壌よ遺し種あり生立て實を結べること百倍せり是を言  
 畢て呼りけるハ耳ありて聽ゆる者ハ聽べし其弟子とふ  
 て曰けるハ是いかある譬ぞ答けるハ神の國の奥義を爾  
 曹にハ知ることを賜せ他の者にハ譬を以てす此ハ視て乞見  
 て聽ても悟ざる爲なり夫この譬の釋種ハ神の道あり  
 路の旁よ遺しハ聽し後惡魔の爲よ其心より道を奪るゝ者  
 あり彼ハ人の信じて救れんことを恐る十三石上よ遣しハ聽  
 とき喜びて道を受きとも根あけれは信きること暫のみ患

難よ遇時ハ道よ背く者あり十四  
 世の諸慮と貨財と宴樂とよ蔽れて實ざる者あり十五  
 遺しハ正かつ善心にて道を聽これを守り忍て實を結ぶ者  
 あり〇十六燈を燃し器にて之を覆ひ或ハ床下よおく者  
 入來る者の其光を見ん爲よ臺の上よ置べし十七  
 る者あく藏て知れま露出ざる者あし是故よ雨曹聽こと  
 を慎め有る者ハあほ予られ無有者ハ有りと意ふ所の物を  
 も奪るべし〇十九此時イエスの母と兄弟あんちよ遇んとて外よ立り二イエ  
 よ因て近くこと能さりしかば二〇或人これをイエスよ告げて  
 曰けるハ爾が母と兄弟あんちよ遇んとて外よ立り三イエ  
 ス答て曰けるハ神の道を聽て之を行ふ者ハ乃ち我母わが

イエスよ我なんぢと何の與あらんや爾よ求われを苦むること勿れ二九これ惡鬼あくきよ人より出よとイエスが命じたるよ因てあり彼の憑れたる事さすでよ久し鍵くさりまた桎梏あがせよて繫守ゑびりまもれけるハ爾ゑんちが名ハ何と稱や答けるハレギヨン是おほくの惡鬼あくきの入たるが故なり惡鬼あくきイエスよ求けるハ命じて底そこあき所さまろよ往しむる勿れな此こよ多の豕いのしの羣山やまよ草くさを食くむたりしが彼等かれらうの豕いのしよ入んことを許せと求ければ之を許せり三惡鬼あくきうの人より出て豕いのしよ入しかは其群はげしく馳下かけくだり山坡かけより湖こよ落おちて溺おぼる三四牧者かぶも其有うし事ことを見みて逃にげゆき之こを邑まちまた諸村むらよ告つげたり五衆人ひどくうの有ありし事ことを見みんとて出いで

兄弟きょうだいなり○二二一あるひ日イエス弟子いと共ともよ舟ふねに登のりて彼等かれらよ湖みづうみの前岸まきへ渡わたるべしと曰いひければ即すなはち漕出こぎいだせり二三舟ふねの走はる時ときイエス寝いねたり颶風わほ湖かぜみづうみよ吹ふき下あし舟ふねよ水滿みづまんとして危あやうかりしかば二四で弟子いきたりてイエスを醒さよし曰いひけるハ師しよ我われ儕はろび亡あんす五イエス起おきて風かぜと浪なみとを斥いそめければ止やみて平穩ひだりかにありぬ六イエス曰いひけるハ爾なんぢら曹ざの信あんいづこに在あるや彼等かれら駭おどろき且かつ奇あやみて互たがひに曰いひけるハ此こハ何人なたれあるぞや風かぜと水みずとに命めいせしかば亦順またあたがへり斯二六てガリラヤガリラヤに對むかへるガダラガダラ人の地じに着つきて岸きしに登あがりし時ときある一人ひとり邑まちより出いでてイエスよ遇あふこの者ものハ久く惡あく鬼きに憑つかれ衣きものをきき家いえよ住すき惟塚たかはにのみ居ゐたりき二七イエスを見て喊さけび叫さけびうの前に俯ひれ伏ふし大聲おほよ呼よりけるハ至上いまとかき神かみの子こ

伏て我家に來り給んことを求りイエスの往と  
云擁あへり四三きんる婦あり十二年血漏を患ひ醫者の爲よ其業を  
盡く耗しけれど誰にも瘡れ得ざりしが四四  
て其衣の裾よ捫ければ直よ血の漏こと止ぬ四五  
るハ我よ捫る者ハ誰ぞや衆人ハミ詰よ捫れる者あしと  
曰りベテロおよび偕よ在者とも曰けるハ師よ衆人あんち  
に擁擠せまるよ我に捫る者ハ誰ぞと曰たまふ乎四六  
曰けるハ我に捫る者あり能力の我身より出るを覺きば也  
四七うの婦ミヅから隠せぬを知るをき來て前よ伏さはり  
し故と其たうちよ愈たることを衆人の前よ告四八  
けの女よ心安かれ爾の信あんちを救へり安然にして往四九

てイエスの所に來れば惡鬼の離れし人衣を着たしかある  
心にてイエスの足下に坐せるを見て懼あへり 惡鬼よ憑  
れたりし人の救れし狀を見たる者この事を彼等よ告げ  
は 三七 ガダラ四方の多の衆庶イエスよ此を去んことを求  
是 大よ懼しが故なりイエス舟に登て返ぬ 惡鬼の離たる  
人 イエスと共に居んことを求けるよイエス之を去じめて  
三九 家にかへり神の爾に行し大ある事を人よ告よと曰けれ  
ば 遂よ去てイエスの已よ行たまひし大ある事を遍邑に傳  
たり○ 四十 イエス返たるとき衆人みな佇望て之を喜び接ふ  
四一 ヤイロと云る人あり此ハ會堂の宰あり年おほよろ十二  
歳なる一人の女ありて瀕死ありければ來イエスの足下よ

四九

かく言ふ時に會堂の宰の家より人きたりて宰よ曰ける  
ハ爾が女はや死たり師を勞はす勿き

五十 イエス之をきく答

て宰よ曰けるハ懼るゝ勿たゞ信せよ女ハ瘡べし

五十一 イエス

家よ入よベテロヤコブヨハ子および女の父母の外たれよ

五十二 イエス

も偕よ入ることを許さゞりき

五十三 イエス

はイエス曰けるハ哭あかれ死たるよ非き寢たる耳

五十四 イエス

うの死たるを知は之を笑へり

五十五 イエス

女の手をとり女起よと呼曰ければ

五十六 イエス

たりイエス命じて食を予しかば

五十七 イエス

の行しことを人よ告るを戒め給へり

五十八 イエス

イエス十二の弟子を召集め凡の惡鬼を出し病を

五十九 イエス

も其處よ居りて亦其處より去

六十 イエス

れ杖また旅囊糧金二の衣をも帶こと勿

六十一 イエス

を出る時かれらよ證のため足より塵を拂へ

六十二 イエス

徧く諸郷にゆき福音を宣傳かつ病を醫せり

六十三 イエス

ヘロディエスの行し諸事を聞て惑り或人ハ之を

六十四 イエス

甦れるありと言ひハエリヤの現れたる也

六十五 イエス

ある人ハ古の預言者の一人甦くる也

六十六 イエス

曰けるハ我ヨハ子の首を斬り斯る事の聞ゆる者ハ誰ある

六十七 イエス

かヘロデ之を見んと欲ふ○使徒たち歸來りて其行しこ

弟弟子よ予て衆の前よ陳しむみあ食飽て餘の屑を十二の  
 筐よ拾たり○十八イエス衆の在さりしとき祈禱志たりしが  
 誰と爲か十九答て曰けるハバブテスマのヨハ子或ハエリヤ  
 或ハ古の預言者の一人の甦る也と二十イエス曰けるハ爾  
 曹ハ我を言て誰と爲かベテロ答けるハ神のキリストあり  
 三イエス彼等を戒めて此事を何人にも告る勿れと命じたり  
 り三又曰けるハ人の子があらゆ多の苦を受て長老祭司の  
 長學者ともよ棄られ且殺され第三日よ甦るべし二三又イエ  
 ス衆人よ曰けるハ若われよ從はんと欲ふ者ハ已よ克て日ひ  
 々うの十字架を負て我よ從へうの生命を保全せんと欲す

とをイエスよ告イエス彼等を携ひて潛にベツサイダと云  
 る邑の邊ある野よ退きしよ十二ひとく衆人志りて隨けれは之を接  
 て神の國の事を語かつ醫を求る者を醫せり○十三日久しうと  
 き十四の弟子きたりてイエスよ曰けるハ此ハ野あれは衆  
 人を去せ四圍の村郷へゆきて宿をとり食を覓る事を爲た  
 十三十五イエス曰けるハ爾曹これよ食を予へよ答けるハ我  
 買ふ非されば別よ食物ハあし此に居し男おほよ五千人  
 人ありきイエス弟子よ曰けるハ衆人を五十人づゝ列べ坐  
 傢たゞ五のパンと二の魚ある耳この許多の人の爲よ往  
 せしめよ十五弟子うの如く行て彼等をみな坐せしめたり  
 イエス五のパンと二の魚をとり天を仰ぎ祝して之をわり  
 よ

者ハ之を喪ひ我ためよ生命を喪ふ者ハ之を保全すべし  
 人もじ全世界を利するども自己を喪ひ自ら亡あは何の益  
 あらん乎云我と我道を恥る者をは人の子も亦おのが榮光  
 と父と聖使の榮光をもて來る時これを恥べし二七われ誠よ  
 ル曹云告ん此よ立者の中よ神の國を見までハ死ざる者あ  
 り○二八此事を言けるのち八日ばかり過てイエスペテロヨ  
 ハ子ヤコブを携ひ祈禱せんとて山に登れり二九祈れる時よ  
 其の顔の貌つねと異り其衣服志ろく輝きぬ三十二人の人あり  
 て之と言へり即ちモーセ三一イエスのエルサレムにて既や世を逝んとする事を語る  
 ミニベテロおよび偕よ在し者等いたく寝たりじが已よ醒て  
 イエスの榮光また偕よ立る二人を見たりこの二人のイ  
 エスと別るゝ時ベテロイエス云曰けるハ師よ此よ居ハ善  
 われらよ三の廬を建せ給へ一ハ爾のため一ハモーセのた  
 め一ハエリヤの爲にせん此ハ其言ところを知ざりし也  
 カく言ふと云きたりて彼等を蓋へり其雲よ入りしどき弟  
 子たち懼ぬ三六聲寂たきは惟イエス一人を見たりこの二人のイ  
 エスと別るゝ時ベテロイエス云曰けるハ此ハ我愛子なり之よ  
 緘て見たりし事を當時ハ誰にも告ぎりき〇三七習日山より  
 下りけきは許多の人々イエス一人を見たり弟子たち口を  
 くりて曰けるハ師よ願くハ我子を眷顧たまへ此ハ我獨子  
 なるよ三九惡鬼の爲よ憑れてハ忽然さけび泡をふき拘撃ら

者ハ之を喪ひ我ためよ生命を喪ふ者ハ之を保全すべし  
 人もじ全世界を利するども自己を喪ひ自ら亡あは何の益  
 あらん乎云我と我道を恥る者をは人の子も亦おのが榮光  
 と父と聖使の榮光をもて來る時これを恥べし二七われ誠よ  
 ル曹云告ん此よ立者の中よ神の國を見までハ死ざる者あ  
 り○二八此事を言けるのち八日ばかり過てイエスペテロヨ  
 ハ子ヤコブを携ひ祈禱せんとて山に登れり二九祈れる時よ  
 其の顔の貌つねと異り其衣服志ろく輝きぬ三十二人の人あり  
 て之と言へり即ちモーセ三一イエスのエルサレムにて既や世を逝んとする事を語る  
 ミニベテロおよび偕よ在し者等いたく寝たりじが已よ醒て  
 イエスの榮光また偕よ立る二人を見たりこの二人のイ  
 エスと別るゝ時ベテロイエス云曰けるハ師よ此よ居ハ善  
 われらよ三の廬を建せ給へ一ハ爾のため一ハモーセのた  
 め一ハエリヤの爲にせん此ハ其言ところを知ざりし也  
 カく言ふと云きたりて彼等を蓋へり其雲よ入りしどき弟  
 子たち懼ぬ三六聲寂たきは惟イエス一人を見たりこの二人のイ  
 エスと別るゝ時ベテロイエス云曰けるハ此ハ我愛子なり之よ  
 緘て見たりし事を當時ハ誰にも告ぎりき〇三七習日山より  
 下りけきは許多の人々イエス一人を見たり弟子たち口を  
 くりて曰けるハ師よ願くハ我子を眷顧たまへ此ハ我獨子  
 なるよ三九惡鬼の爲よ憑れてハ忽然さけび泡をふき拘撃ら

れて傷み離るゝこと實よ難し。我これを逐出する事を爾の弟  
子よ求しかど能ぎりき。四一 イエス答て曰けるハ噫信ふき  
停逆世ある哉。わき爾曹の中よ爾曹を忍て幾何時あらんや  
雨が子を此よ携來れ。來は惡鬼かきを傾跌て拘撃ぬ。イエ  
ス汚たる鬼を斥て其子を醫し父よ予へたり。四二  
の大ある能を駭きイエスの行し事を異める時よイエス弟  
子よ曰けるハ此言を爾曹耳よ藏めよ夫人の子ハ人の手  
付さきん。四五 彼等この言を悟ぎりし悟ざるやう隠された  
る也。彼等もまた懼て此事を聞きりき。〇 四三  
よ誰か大あらんとの争論ありければ。四四  
知て孩子をとり側よたてゝ。四五 彼等よ曰けるハ我名の爲よ  
此孩子を接る者ハ即ち我を接るあり我を接る者ハ我を遣  
しゝ者を接るあり凡て爾曹がうち最も小者ぞ是大あらん  
なり。〇 五一 イエス天よ升るの期いたりければエルサレムよ  
往ことを確定めたり。五二 使者等を先よ遣しければ彼等ゆき  
てイエスよ備んが爲サマリヤ人の郷よ入しよ。五三  
ルサレムよ向行さまなるが故ヨイエスを納ぎりき。五四  
のヤコブヨハ子此事を見て曰けるハ主よ我儕エリヤの行  
し如く天より火を召降し彼等を滅さんとす可か。五五  
イエス

新約全書 るかでん第九章 自四十九至五十五節 五十九

れて傷み離るゝこと實よ難し。我これを逐出する事を爾の弟  
子よ求しかど能ぎりき。四一 イエス答て曰けるハ噫信ふき  
停逆世ある哉。わき爾曹の中よ爾曹を忍て幾何時あらんや  
雨が子を此よ携來れ。來は惡鬼かきを傾跌て拘撃ぬ。イエ  
ス汚たる鬼を斥て其子を醫し父よ予へたり。四二  
の大ある能を駭きイエスの行し事を異める時よイエス弟  
子よ曰けるハ此言を爾曹耳よ藏めよ夫人の子ハ人の手  
付さきん。四五 彼等この言を悟ぎりし悟ざるやう隠された  
る也。彼等もまた懼て此事を聞きりき。〇 四三  
よ誰か大あらんとの争論ありければ。四四  
知て孩子をとり側よたてゝ。四五 彼等よ曰けるハ我名の爲よ  
此孩子を接る者ハ即ち我を接るあり我を接る者ハ我を遣  
しゝ者を接るあり凡て爾曹がうち最も小者ぞ是大あらん  
なり。〇 五一 イエス天よ升るの期いたりければエルサレムよ  
往ことを確定めたり。五二 使者等を先よ遣しければ彼等ゆき  
てイエスよ備んが爲サマリヤ人の郷よ入しよ。五三  
ルサレムよ向行さまなるが故ヨイエスを納ぎりき。五四  
のヤコブヨハ子此事を見て曰けるハ主よ我儕エリヤの行  
し如く天より火を召降し彼等を滅さんとす可か。五五  
イエス

新約全書 るかでん第九章 自五十六至六十二節

六十

顧みて之を責め曰けるハ爾曹の心如何ある乎を自ら知るあり遂ニ他の郷より往り○路を行とき或人イエスに曰け  
 あり遂ニ他の郷より往り○路を行とき或人イエスに曰け  
 るハ主よ何處より往たまふとも我從はん五八イエス彼よ曰け  
 るハ狐ハ穴あり天空の鳥ハ集あり然ども人の子ハ枕する  
 所あし五九またある一人よ曰けるハ我よ從へ彼いひけるハ主  
 よ先ゆきて父を葬る事を我よ容せ六〇イエス曰けるハ死た  
 る者よ其死じ者を葬らせ爾ハ往て神の國を宣よ六一又ある  
 一人いひけるハ主よ爾よ從ハん先ゆきて家人に別を告る  
 ことを容せ六二イエス曰けるハ手を犁よ着て後を顧る者ハ  
 神の國よ當ざる者あり

此後主また七十人を立て之を兩個づゝに分ち自ら  
 至んどする諸邑諸地へ前に遣さんとてニ彼等に曰けるハ  
 収稼ハ多く工人ハ少し故にうの稼主に工人を収稼所に遣  
 んことを求べし往われ爾曹を遣すハ羔を狼のなかに入  
 るが如し四さいよまた旅袋履をも携こと勿れ途にて人に問候  
 をもする勿色五ひと人の家に入は先うの家の安全あらん事  
 求へ六若こくに安全の子あらば爾曹が祈る安全ハ其家に  
 留らん若志からまは其祈る安全なんぢらに歸べし  
 に居りて供る所のものハ之を飲食せよ蓋工人の其工錢を  
 覺ハ宜さればあり家より家に移ることを爲され  
 んに接る者あらば其あんぢらの前に供る者を食せよ  
 邑に入り其家に

七十人喜び返りて曰けるハ主よ惡鬼さへも爾の名よ因て  
我儕よ服せり イエス曰けるハわれ電の如くサタンの天  
より墮るを見し 我なんぢらよ蛇蠍を踐また敵の諸の權  
を制ふる權威を賜たり 必ず爾曹を害ふ者あし 然ども惡  
鬼の爾曹よ服しゝ事ハ喜とする勿れ 尔曹が名の天よ錄さ  
れしきを喜とすべし 此時イエス心よ喜びて曰けるハ天地  
の主なる父よ此事を智者と達者とよ隠して赤子よ顯し給  
ふを謝す父よ然うれ是の如きハ意旨よ適るあり 二三二三父ハ萬  
物を我よ賜ふ父の外よ子ハ誰あると識者あく亦子および  
子の顯す所の者の外よ父ハ誰あると識者あし イエス弟二三  
子を顧て竊よ曰けるハ爾曹が見ところの事を見るゝの目め

の 中 ある 病 の 者 を 醫 せ 亦 衆 人 に 神 の 國 へ 爾 曹 に 近 けり  
曰 いへ 十 もし 邑 まち 入ん ふ 接る 者 あくは 衡 いそ て 曰 いへ十一 われら 我 僮 ふ 沾  
たる 雨 なんぢが 邑 まち の 墓 ひら へ 爾 曹 ふ 對 ひかひて 拂 はらは 然 さも 神 の 國 の 近 ける  
を 知 あれ十二 われ 爾 曹 あんぢら ふ 告 づけん 其 うのひ 日 いたらは ソドム の 刑 罰 ばつ ひ 此 邑  
よ り も 却 か つて 易 やす かる べ し十三 あ き 福 わざはひ あ る 哉 コラシ ン よ 嘘 福 あ  
る 哉 ベツサイダ よ 爾 曹 の 中 うら ふ 行 な 行 ことなるわざ し 異 能 う きを 若 ツロ と シドン  
よ 行 し あ ら は 彼 等 は 早 く 麻 あさ を き 灰 はひ を 蒙 かむ り 坐 さ して 悔 改 しな  
る べ し十四 審 判 さばき に ハツロ と シドン の 刑 罰 けいばつ は 同 曹 なんぢら より も 却 て  
易 からん十五 已 すで ふ 天 てん に ま で 擧 あげ ら れたる 力 べナウン よ 又 陰 府 まつよみ  
よ 落 さ る べ し十六 爾 曹 あんぢら ふ 聽 者 きくもの は 我 は 聽 きくもの ふ 有 あり 爾 曹 あんぢら を 棄 すつ る 者 は  
我 を 棄 すつ る な り 我 を 遣 つかは し く 者 は 我 を 棄 すつ る な り ○十七

ハ福あり  
が見ところの事を見んとせしかと見る  
の事を聞んとせしも聞きき  
あり起て彼を試み曰けるハ師よ我ふよを爲は永生を受  
べき乎  
イエス曰けるハ律法よ錄されしハ何ぞ爾いかよ  
讀か答て曰けるハ爾心を盡し精神を盡し力を盡し意を  
盡して主ある爾の神を愛すべし亦己の如く隣を愛すべし  
云々  
づからを罪あき者よ爲んとてイエスよ曰けるハ我隣とハ  
誰ある乎  
イエス答て曰けるハある人エルサレムよりエ  
リコよ下るとき強盜よ遇り強盜うの衣服を剥取て之を打

擲き瀕死ふふして去ぬ斯る時ヨ或祭司この路より下し  
が之を見過にして行リ又レビの人も此ヨ至り進み見て  
同く過行リ或サマリアの人旅して此ヨ來り之を見て憫  
み三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三  
せ旅邸ヨ携往て介抱せり次日いづるとき銀二枚を出し  
ある主ヨ予て此人を介抱せよ費もし増は我かへりの時なん  
館主ヨ予て此人を介抱せり然は此三人のうち誰か強盜ヨ遇し  
ある主ヨ予て此人を介抱せり然は此三人のうち誰か強盜ヨ遇し  
者ヨの隣なると爾意ふや彼いひけるハ其人を矜恤たる者  
ありイエス曰けるハ爾も往て其おとく爲よ○かれら路  
を行ふ時イエス一郷ヨ入ければマルタと云ふ婦これを迎  
て自己の家ヨ入ぬ三九その姉妹にマリアと云ふ者ありイエ

スの足下よ坐りて其道を聽りマルタ供給のこと多して心いりみだれイエスよ近よりて曰けるハ主よ我が姉妹われを一人遣て勞動しむるを何とも意ざるか彼に命じて我を助しめよ四一イエス答て曰けるハマルタよマルタは端により思慮ひて心労せり四二され然と無くて叶ふまじき者ありマリアハ既よ善業を撰たり此ハ彼より奪べからざる者なり

**第十一章** イエス某所にて祈禱志けるよ畢しどき一人の弟子イエス曰けるハ祈る時へ斯いふべし天よ在ぞ我儕の父よ願くハ聖名を尊崇させ給へ爾國を臨たら

子いひけるハ主よヨハ子其弟子よ教じ如く我儕にも祈ることを教たまへニイエス曰けるハ祈る時へ斯いふべし天よ在ぞ我儕の父よ願くハ聖名を尊崇させ給へ爾國を臨たら

せ給へ爾旨の天よ成おどく地にも成せ給へ三我儕の日用給たま我儕の罪を毎日よ與たまへ四我儕よ罪を犯す者を凡て免せば往きて友よ我が朋輩旅より來しに供べき物あきゆゑ三のバンを借よと曰んよ内よ居もの答て我を煩はず勿れ既や門へ閉われと共に兒曹も牀よ在は起て予ること能せば予され雖ひたすら請が故に其需よ從ひ起て予べし九我あんぢらよ告ん其友あるよより起て既んぢらよ告ん求よ然は予られ尋よ然はあひ門を叩よ然はあ啓るくことを得ん  
蓋すべて求る者ハ得たづねる者ハあ

## 新約全書

## ルカでん第十一章 自十一至十八節

六十八

ひ門を叩者ハ啓るれば也  
のパンを求んよ石を予んや魚を求んに其ニ代て蛇を予ん  
や卵を求んよ蠍を予んや然は爾曹惡者ふがら善賜を  
うの兒曹よ予るを知まして天よ在す爾曹の父ハ求る者よ  
聖靈を予きらん乎○十四イエス瘡啞ある惡鬼を逐出しける  
よ惡鬼いで瘡者ものいひしかは人々駭けり十五其中ある  
者の曰けるハ彼ハ惡鬼の王ベルゼブルよ藉て惡鬼を逐出  
せる也又ある人々イエスを試んとて天よりの休徵を求  
たり十七イエスの意を知て曰けるハ互よ分争ふ國へ亡び  
たれひよ分争ふ家ハ傾るゝ也十八若サタンも自ら分争は  
いかで立んや夫あんぢら我を言てベルゼブルよ藉て惡鬼

を逐出すとせり十九若われベルゼブルよ藉て惡鬼を逐出さ  
は爾曹の子弟ハ誰よ藉て惡鬼を逐出をや夫かれらハ爾曹  
の裁判人と爲へし二十若われ神の指をもて惡鬼を逐出たる  
あらば神のかくの國ハ既や爾曹よ來れり二三勇者鎧を擐て邸を守  
るときハ其所有安全あり二三もし之より勇者きたりて其ニ  
勝どきハ其特とせる鎧を奪ひ且賦物を分べし二三われ  
らざる者ハ我よ叛き我と偕よ歟ざる者ハ散すなり○二四我と偕ふ  
鬼人より出て旱たる所をめぐり安を求れとも得まして其ニ  
けるハ我出し家よ歸らん二十五己よ來しよ掃淨り飾れるを見  
云遂よ往て己よりも惡き七の惡鬼を携へ入て此よ居は其ニ  
人の後の患狀ハ前より更よ惡かるべし二七この話を言ると

おく者なし入來る者の其光を見ん爲よ燭臺の上より置あり  
 身の燈ハ目あり爾の目瞭かあらは全身あかるく其目眊  
 ければ爾の身も暗し故ヨ爾よある光の暗らぬやう慎め  
 よもし爾の全身光明なるべし○イエス語れるとき或パリ  
 照す如く全く光明なるべし○イエス語れるとき或パリ  
 サイの人共よ食せん事を請ければ入て食よ就りうの食  
 する前より洗ことを爲さりしを見てパリサイの人異めり  
 主これよ日けるハ爾曹バリサイの人椀と盤の人外を潔す然  
 と爾曹内ハ貪慾と惡にて充り無知なる者よ外を造し者  
 はまた内をも造ざりし乎なんぢら所有物を以て施せ然  
 は爾曹の爲よ凡の物ハ潔れる也禍ある哉あんぢらバリ

き群集中より一婦聲を揚て曰けるハ爾を孕し腹と爾の  
 吹し乳ハ福あり二六イエス答けるハ然されど神の道を聽て  
 其を守る者の福にハ若キ○二九ひそぐるあつま人々擁集きる時イエス曰け  
 るハ今世ハ惡し奇跡を求るとも預言者ヨナの奇跡の外が  
 よ奇跡ハ予られじ三十蓋ヨナがニ子ベの人よ奇跡と爲し如き  
 よ共よ起て今世の人の罪を斷めん彼ハ地の極よりソロ  
 モンの智慧を聽んとて來れり夫ソロモンより大ある者この  
 よ在ニ子ベの人審判の日よ共よ起て今世の人の罪を  
 を断めん彼等ハヨナの勸言よ因て悔改めたり夫ヨナより  
 大ある者こよ在三三とモーピーを燃て隠たる處あるひハ升の下よ  
 七十一

新約全書 るかでん第十一章 自四十三至四十九節 七十二

サイの人よ薄荷茴香および凡の野菜十分の一を取り納て義と神を愛することを廢れ行ふべき事あり彼も亦廢べからざる者あり禍なる哉なんちらバリサイの人よ會堂の高座市上の間安を好み其の上を行く人々これを知さる也四五ある教法師こ墓の如し其の上を行く人々これを知さる也四五禍ある哉うれ爾曹へ隠没たる建へて曰けるハ師よ此言ハ我儕をも辱しむ四六イエス曰けたへて其荷よ按き禍ある哉あんぢらハ預言者のおよび使徒を建なんぢらの先祖ハ之を殺せり四七わざひ事をこのも證明を爲り夫かれらハ之を殺し爾曹先祖の爲せる四八實よ爾曹ハ其墓を建つたへて曰けるハ師よ此言ハ我儕をも辱しむ四九是故よ神の智慧いへる言あり我預言者および使徒を

彼等よ遣さんよ其中の或者を殺し或者をは簪むべしと創世より以來あがしま凡の預言者の血ハ此代よ於て討さんと爲あり即ちアベルの血より殿と祭壇の間よ殺されタルザカリアの血にまで至われ誠よ爾曹よ告ん之を此代よ討さよ討すべし五二ふんぢら禍あるかあ教法師よ知識の鑰を奪リテ自ら入キ且入んどする者をも阻り五三此言を語るとき學者とバリサイの人々深く憤恨を含て多端の事を詰かけ此の口より出る言を何事か取へ訴んどして伺ひたりうのとき數萬の人々相踐あふ程よ集れりイエス善あり弟弟子よ曰けるハ爾曹バリサイの人々の麴酵を謹めよ是偽善あり弟弟子よ曰けるハ爾曹バリサイの人々の口より出る言を何事か取へ訴んどして伺ひたりうのとき數萬の人々相踐あふ程よ集れりイエス先弟弟子よ曰けるハ爾曹バリサイの人々の口より出る言を何事か取へ訴んどして伺ひたりうのとき數萬の人々相踐あふ程よ集れりイエス第十一章

聖靈を襄す者ハ赦さる可らむ。人なんぢらを會堂また執政および權ある者の前ニ曳携ふは如何。こたへ何を言んと思ひ煩ふ勿れ。其時ニ説べき言ハ聖靈あんぢらニ示すべし。○衆人の中より一人イエスは曰けるハ師よ我が兄弟ニ遺業を我ニ分よと命たまへ。イエス曰けるハ人よ誰われを立て爾曹の裁判人また物を分つ者と爲しそ。イエス衆人曰けるハ戒心して貪心を慎めよ。夫人の生命ハ所蓄の饒あるにハ因ざる也。また譬を彼等ニ語て曰けるハ或富人うの田畠よく豊ければ自ら付いひけるハ我が作物を藏る所あきを如何せん。又曰けるハ我かく爲ん我倉を毀ち更ニ大なるを建すべて我が作物と貨を其所ニ藏べ

三 はのゆゑ  
是故 よ爾曹幽暗よ語しことハ光明よ聞ゆべし密  
る室にて耳よ附言しことハ屋上よ播るべし  
よ告ん身體を殺して後よ何をも爲能きる者を懼るゝ勿れ  
五 われ懼べき者を爾曹よ示さん殺したる後よ地獄よ投人  
る權威を有る者を懼よ我まことよ爾曹よ告ん之を懼べし  
六 五の雀ハ二錢にて售よ非矣や然るよ神よ於ハ其一をも  
忘れ給ハキ  
七 爾曹の首の髪また皆かぞへらる故よ懼るゝ  
勿れ爾曹ハ多の雀よりも貴れり  
八 又わき爾曹よ告ん我を  
人前の前よ識きと言ん者をは人の子も亦神の使者の前よ之を  
ひの前よ識きと言ん者ハ神の使者の前よ之を  
我を人の前よ識きと言ん者をは人の子も亦神の使者の前よ之を  
九 我を人の前よ識きと言ん者をは人の子も亦神の使者の前よ之を  
凡う人の子を誇る者ハ神の使者の前よ之を  
敕さる可れ

ぞ其他を思ひ煩ふや百合花ハ如何して生長かを思へ勞  
せ紡がざる也我爾曹ニ告んソロモニの榮華の極の時だニ  
も其裝この花の一ニ及きりき二神ハ今日野ニ在て明日爐  
ニ投入らるゝ草をも如此ようハせ給へば況て爾曹をや吁  
信仰うすき者よ二九爾曹何を食ひ何を飲んど求むる勿また  
思ひ惑ふこと勿き三十凡て是等の物ハ世界の邦人の求めるも  
の也あんぢらの父ハ是等の物の爾曹ニ無て叶ぬ事を知る三一  
たゞ神の國を求めよ然は是等の物ハ爾曹ニ加らるべし  
小き羣よ懼るゝ勿れ爾曹の父ハ喜びて國を爾曹ニ予へ給  
へん三三爾曹の所有を售て施し己が爲よ常よ舊きる財布す  
あはち盡さる財寶を天ニ備よ其處ハ盜賊も近よらむ蓋みも

十九  
斯て靈魂に對ひ靈魂よ多年を過ほとの許多の貨物を  
有たれは安心して食飲樂めよと言んとす二千  
よ曰けるハ無知る者よ今夜あんちが靈魂どらるゝこと  
有べし然ば爾の備し物ハ誰が有にある乎二三  
財を積へ神よ就て富ざる者ハ此の如なりイエスうの弟  
子よ曰けるハ故よ我あんぢらよ告ん爾曹生命の爲よ何を  
くらひ身體の爲よ何を著んとて思ひ煩ふ勿れ二三  
り優り身體ハ衣よりも優れり二四  
も納屋をも有き然ども神ハなほ此等を養ふ況て爾曹ハ鳥  
よりも貴きこと幾何ぞや二五  
て其生命を寸陰も延得んや二六  
然ば最小事すら能ざるよ何  
あたは

新約全書 るかでん第十二章 自卅四至四十二節

七八

よ主人がうの僕等の上よ立たる忠義よして智き家宰ハ誰  
ある乎四三うのあゆ  
其主人きたる時よ是の如く勤るを見らるゝ僕ハ  
福あり四四われ  
我まことよ爾曹よ告ん其所有を皆かきよ督らす  
べし四五あらへ一もめ  
若うの僕心の中よ我が主人の来るハ遲らんと思う  
の僕婢を扑たき食飲して且酒よ醉はじめは四六うのゑもへ  
人おもハさるの日志らざるの時よ來りて之を斬殺し其報  
を不信者と同うすべし。僕主人の心を知あがら預備せば  
亦その心よ從ざる者ハ扑るゝこと多らん知せして扑べき事を作し者ハ扑るゝ事も少からん多く予らるゝ者ハ多く求らるべし多く托れば之より多く求べし〇四九われ火を  
地よ投入ん爲よ來れり我あよをか欲む己よ此火の燃たら

壞あがハアガキル也ナリ  
二  
爾曹なんぢらの財寶たからの在あるとコロよハ爾曹なんぢらの心こころも亦う  
こよある在ベシ 三五  
爾曹なんぢら腰こよ帶おびし火燈ひびきを燃ともして居され 三六  
主人婚筵主婦よハ 三七  
歸かへりき來カり門もんを叩たゝかは速すみやかよ啓ひらかん爲ためよ彼かれを待まつ人のひとの如ごせよ  
人じんきたりて其その目めを醒さまし居きるを見みふは此この僕あもへハ福さいはあり誠まことよ我われあ  
んぢらひんぢらよ告つげん主人おゆみづから腰こよ帶おびし僕あもへを食あくよ就つかせ前まへて之これ  
よ供事きふすべし 或みハ二更にかうあるひハ三更さんかうよ主人おゆきたりて然あれ  
あせるを見みあは此この僕あもへハ福さいはあり 三九  
爾曹なんぢらこれこれを知しべし若わし家いえ  
の主人おゆ盜賊とうばくいづれの時ときよ來きたるかかを知しほ其あれ家いえを守まつりて破やぶらせまじ  
四十然あれは爾曹なんぢらも預あらかじめ備あなへせよ不意むのいとときよ人ひとの子こきたらんと  
爲すれはあり 四  
ベテロ曰いひけるハ主おゆよ此この譬たゞハ我われ儕われらよ言いふか又またハ凡すべ  
の人ひとよ言いふか 四二  
主おゆいひけるハ時ときよ及およて食物あよくしつを給あたは與よ志めんめん爲ため

ことを求めよ恐くハ訟る者あんちを裁判人にひき裁判人  
あんちを下吏よ付し下吏あんちを獄よ入ん五九  
告ん一錢も残き償ふまでハ爾うこを出ことを得ざる也  
第十三回當時あつまりたる者の中ヨビラトがガリラヤ人  
の血を其供物ヨ雜し事をイエスヨ告る者あり二イエス答て  
彼等ヨ曰けるハ爾曹このガリラヤ人ハ是の如く害されし  
故ヨ凡のガリラヤ人よりも益りて罪ある者と意ふや三我  
あんちらヨ告ん然キ爾曹悔改めきは皆おあじく亡さるべ  
しシロアムの塔たふれて壓死されし十八人ハエルサレ  
ムヨ住る凡の人々よりも益りて罪ある者と意ふや五われ  
爾曹ヨ告ん然キ爾曹悔改めきは皆おなじく亡さるべし六

ん事あり 五十 われ受べきのバブテスマあり其成遂らるゝ迄  
ハ我痛いかばかりぞ乎 五一 我ハ安全を地ヨ施んとて來ると、  
意ふや我あんぢらヨ告ん然走反て分争しむ 五二 いま  
一家ヨ五人あらは三人ハ二人ヨ敵對し二人ハ三人ヨ敵對  
して分るべし 五三 父ハ子ヨ子ハ父ヨ母ハ女ヨ女ハ母ヨ姑ハ  
其婦ヨ婦ハ其姑ヨ敵對して分るべし 五四 イエスまた衆人ヨ  
曰けるハ雲の西ヨ起るを見は直ヨ雨ふらんと雨曹いふ  
果て然り 五六 僞善者ヨ天地の色象を別ことを知て此時を別ち能ざる  
ハ何ぞや 五七 また何ぞ自ら公義を審ざる乎 五八 あんぢ訟る者  
と共に 五九 有司ヨ往とき途中にて心を盡して彼より釋されん

又この譬たとへを云いへり或人ひとうの葡萄園ぶどうばたけよ植うゑおきたる無花果樹いわいじゅあ  
りしが來きさりて之これよ果みかを求もとむれども得いたゞきりければ其園丁そのはたづくり曰いひ  
けるハ我われ三年さんねんきたりて此この無花果樹いわいじゅよ果みかを求もとむれども得いたゞきり  
を研いたゞされ何ぞ徒いたゞらよ地ちを塞ふさや園丁ははたづくりこたへけるハ主まゆよ我われ  
うの周圍まわりを堀ほりて之これよ藝こやするまで今年こゑも容ゆるせ九九もし果みかを結むす  
はゞ善よもし結むすば後のちよ之これを研いたゞべし○イエス安息日あんきつじよ或ある  
會堂くわいだうにて教きしよ十八年はちねん鬼おによ患わづらはされたる婦をんなあり僵僂かゝまりて少すこ  
も伸のぶること能あたはきりきのぶ十八年はちねん鬼おによ患わづらはされたる婦をんなあり僵僂かゝまりて少すこ  
より釋はなさるいひと曰いひて十三さん手てを婦をんなよ按あけられは直ただよ伸のびて神かみを讀あが  
美めいたり十四じゅうよん會堂くわいだうの宰つかさイエスの安息日あんきつじよ醫いやしたる事を怒いかりて  
衆人ひきよ曰いひけるハ事を爲べきの日ひ六むいか日ひあれは其中うちよ來きた

りて醫いやさるべし安息日あんきつじよ爲あつされ十五あい主かれよ答こたへて曰いひけるハ  
偽善者よ爾曹なんざらおのく安息日あんきつじにハ其牛うしや驢ろばをとき廻まわりより  
牽出ひきだして水みずを飲のまさる乎ま况まて此この婦をんなアブラハムの裔すゑあ  
り十八年はちねんサタなンよ縛まつられたる其結むすびを安息日あんきつじよ解とけべからざ  
らん乎ま十七じゅうしちイエス如此かくいひければ敵對てきたいしし者ものみみ慚はぢ又衆ひき  
人ひとみみ其行なまし慈惠かたじけなきことを喜よろこべり十九じゅうイエスまた曰いひけるハ神かみが  
の國くにハ何なによ比たゞへ又またふにく譬たとへんや二十じゅう一粒ひとつぶの芥から種たねの如ごとし人ひとこ  
れを取とりて其園そのはたけよ播まは長生ながなて大おほある樹きとあり天空うつらの鳥とりうの  
枝えだよ棲すむあり二十一じゅう又またいひけるハ我神われのかみの國くにを何なによ譬たとへんや三麴さんぱん醇じん  
の如ごとし婦をんなこれを取とりて三斗さんの粉この中なかよ納なせは盡ことぐく發は出だすあ  
り○三イエス教きつゝ各城まち各鄉むらを過すぎエルサレムエルサレムよ向むかひて旅行たび

り 二三 或人いひけるハ主よ救るゝ者ハ少き乎 二四 イエス彼等  
 ヨ曰けるハ窄門よ入ためよ力を盡せ我あんちらよ告ん入  
 ん事を求て能さる者おほし 二五 家の主人おきて門を閉し後  
 ョ爾曹外よたち門を叩て主よ主よ我よ啓と曰んよ主人こ  
 たへて我あんちらハ何處より來しか知まど曰ん二六然る時  
 ョ我儕ハ爾の前よ食飲し爾また我儕の衢よ教たりしと言  
 出さんよ 二七 主人こたへて我あんちらよ告ん何處より來し  
 か知ま皆惡を爲す者よ我を去と曰ん二八爾曹アブラハムイ  
 サクヤコブ及び凡の預言者ハ神の國よ在て爾曹ハ外よ投  
 出さるゝを見ん時よ哀哭切歎する事有べし 二九また人々  
 西や東北や南より來りて神の國よ坐するならん 三十うれ後  
 福ありと爾曹いはん時いたる迄ハ我を見ざるべし

の者ハ先よ先の者ハ後よ爲べし○ 三一當日あるパリサイの  
 人々來りてイエスよ曰けるハヘロデ爾を殺さんとする故  
 ヨ此を離往 三二答て曰けるハ爾曹ゆきて其狐よ告よ我今日  
 明日惡鬼を逐出し病を醫し第三日よ此事をはらん 三三され  
 も今日明日また次日ハ我かあらぞ行べし蓋預言者ハエル  
 サレムよ預言者を殺し爾よ遣されし者を石にて擊る者よ  
 母鶴の雛を翼の下よ集むる如く我あんちの赤子を集んと  
 爲しこと幾回ぞや爾曹ハ欲き 三五見よ爾曹の家ハ墟と爲て  
 遣さるべし誠よ我あんちらよ告ん主の名よ託て来る者ハ  
 福ありと爾曹いはん時いたる迄ハ我を見ざるべし

人ひきの家いえに入いりしよ人々ひとどを窺うかがたり 其前まへよ腹脹おなかを患あひたる人ひとありしかば 三 イエス應こたへて教法師さうはふしとバリサイの人人々よ曰いひけるハ安息日あんうにちよ醫いやす事ことハ宜よきや否いな四 かれら默然まぐれらたりイエスイエスのア能あたはぎりき○七 斯このて其席そのせきよ請まねかれたる人人々の首座かみざを擇えらぶる乎か五 彼等かれらよ答こたへて曰いひけるハ能あたはぎりき○七 斯このて其席そのせきよ請まねかれたる人人々の首座かみざを擇えらぶる乎か六 彼等かれらよ答こたへて曰いひけるハ能あたはぎりき○七 斯このて其席そのせきよ請まねかれたる人人々の首座かみざを擇えらぶる乎か九 彼かれと爾なんぢを請まねきし者ものきたりて此この人に座すわを譲ゆづれど曰いはん然さらは爾なんぢ

羞はぢて末座はづに往ゆべし 十 是故このゆゑに爾なんぢまねかれん時ときハ往ゆて末座はづに座すわせよ請まねきし者もの來きりて友ともよ首座かみざに進すゝめど爾なんぢに言いはば同席どうせきの者ものの前まへに爾なんぢ尊たんまるべし 十一 凡ともそ自から高たかぶる者ものハ卑くたさき自から卑くただる者ものハ高くせらるべし 十二 又またかきを請まねきる者ものに曰いひけるハ爾なんぢ午ひ餐餐あるひハ晚餐ゆふげを設あつるとき朋友兄弟ともだちきょうだい親戚しんけいまた富とみる隣隣の人ひとを請まねふは貧乏まづきもの癱疾かたは跛者あはへ瞽者めい能あたはきを請まねけ 十四 然さうは爾福なんぢふくなるべし蓋あわかれらハ爾なんぢに報むくること能あたはき義たとへき人々ひとどの甦よみがへらん其時ときふんちに報答むくあれば也なリ十五 同ともに食あせる者の一人ひとこれを聞きてイエスイエスに曰いひけるハ或ある人ひとおほいある筵ふるまいを設あつて多賓おほせいを請まねけり 十六 イエスイエス彼かれに曰いひ

僕を其請たる者に遣して百物もや備たれば來るべしと言  
せけるに十六彼等みあ同く辭ぬ其始の者かれに曰けるハ我  
田地を買たれば往て視さるを得ず願くハ我を允し給へ十九  
又一人の者いひけるハ我五耦の牛を買たれば之を試むる  
爲に往ん願くハ我を允し給へ二十またひとりの者いひけるハ我  
妻を娶たり是故に往ことを得ざる也二十一其僕かへりて此事  
を主人に告ければ主人怒て其僕に曰けるハ速かに邑の衙  
巣に往て貧者癱疾跛者瞽者なきを此に引來れ二十二僕いひけ  
るハ主よ命の如く行り然と尙あまりの座あり二十三主人僕に  
曰けるハ道路や藩籬の邊にゆき強て人々を引來り我家に  
盈しめよ二十四我あんちらに告ん彼まねきたる人々ハ一人だ

よ我餐を嘗ふ者あじ〇二五多の人々エスと偕よ行じがイ  
エス顧みて彼等よ曰けるハ凡う我よ來てうの父母妻子子  
兄弟姉妹また己の生命をも憎む者は非されは我弟子と爲  
ことを得キ二六又うの十字架を任ぜして我よ從ふ者ハ我弟  
子と爲ることを得キ二七また恐くハ基を置て之を成能むは見者みふ嘲笑て三十八此人ハ築始て成遂き  
りじと曰ん三十九また王いで其他の王と戰ハんよ先坐して此  
一萬人をもて彼が二萬人よ敵すべきや否を籌さらん乎三  
もし及ば敵ふほ遠れる時よ使を遣じて和睦を求べじ三  
然は此の如く爾曹うの所有を盡く捨さる者ハ我弟子と爲

ことを得き  
もて之よ味を和んや  
あり耳ありて聽る者ハ聽べじ  
あり悔改むるよ及ざる九十九の義人よりハ尙天よ於て喜  
あらん  
んよ燈火を燃て家を掃除し之を獲までハ切よ尋せらん乎ハ  
尋得は其友と其鄰の人々を召集て曰ん我と共よ喜べ我  
うじふへる金錢を獲たれば也  
一人の罪ある人悔改めあは神の使の前よ喜あるべじ○  
また曰けるハ或人子二人あり十二の季子父よ曰けるハ父  
よ我得べき業を我よ分予よ父うの産を盡く集て遠國へ旅行せ  
放蕩にして其分資を皆うこよて耗せり盡く耗しきとき  
幾日も過ぎるよ季子うの産を盡く集て遠國へ旅行せじが  
大ある饑饉うの地よ有て彼ともしく爲はじめければ  
往

ことを得き  
もて之よ味を和んや  
あり耳ありて聽る者ハ聽べじ  
**第十五章**さて稅吏と罪ある者ともイエスよ聽んとて近よ  
りければ二パリサイの人と學者たち議誦て曰けるハ此人  
ハ罪ある人よ接りて共よ食せり三イエス此譬を彼等よ語  
て曰けるハ四爾曹のうち誰か一百の羊あらんよ若うの一  
を失はゞ九十九を野よおきて其失し羊を獲までハ尋さ  
らん乎五尋得は喜て之を已の肩よ負け六家よ歸て其友と其  
鄰の人々を召集て曰ん我と共よ喜べ我うしる羊を獲  
たれば也七われ爾曹よ告ん此の如く一人の罪ある人悔改  
めば四福音記載五アマガニヤウシテ六アマガニヤウシテ  
七アマガニヤウシテ八アマガニヤウシテ九アマガニヤウシテ  
十アマガニヤウシテ十一アマガニヤウシテ十二アマガニヤウシテ  
十三アマガニヤウシテ十四アマガニヤウシテ十五アマガニヤウシテ

て其地の一民よ身を投たり其人豕を牧ためよ彼を野よ遣せり  
十六かれ豕の食する所の豆莢をもて己が腹を果さんと  
 欲ふほどあれと何をも彼よ予る人あし自ら省悟て曰け  
 るハ我父の所にハ食物あまれる傭人の許多か有よ我ハ飢  
 て死んとぞ十七起十八て我父十九往二十て曰ん父よ我天二十一と爾の前二十二よ罪  
 を犯二十三たれは爾の子と稱二十四るよ足ざる者あり爾の傭人の一  
 人の如く我を爲二十五たまへど即ち起二十六て其父二十七往二十八り尙とほく  
 在二十九じよ其父三十かれを見て憫三十一と趨三十二往三十三き其頸三十四を抱三十五て接吻三十六しぬ  
 子父三十七よ曰三十八けるハ父よ我天三十九と爾の前四十よ罪を犯四十一たれは爾の子  
 と稱四十二るよ足ざる也四十三父うの僕等四十四よ曰四十五けるハ至四十六も美服四十七を携四十八  
 來四十九りて之五十よ衣五十一せ其指五十二よ環五十三をはめ其足五十四よ履五十五を穿五十六せよ五十七また

肥一たる犧二を牽三來りて宰四我儕五食六して樂七まん八是九わが子死十  
 て復生十一うじふひて復得十二たれは也十三とて彼等十四と共十五よ樂十六み始十七む  
一五うの兄田一六よ在一七じが歸一八て家一九よ近二十き樂二一と舞二二の音二三を聞二四うの  
 僕二五の一人二六を召二七て是二八何事二九ぞやと問三十るよ僕三一曰三二けるハ爾三三の弟  
 歸三四りたり恙三五あく彼三六を得三七たりしよ因三八て爾三九が父肥四十たる犧四一を宰四二  
 たるあり四三兄四四いかりて入四五是四六故四七よ其父四八いでく彼四九よ勸五十しか  
 ば五〇父五一よ答五一て曰五二けるハ我多年五三あん五四ぢよ事五五て未五六だ爾五七の命五八よ  
 为五九よ爾六十の業六一を耗六二じたる此六三あん六四ぢが子六五かへれは之六六が爲六七よ肥六八の  
 たる犧六九を宰七十れり七一父七二かれよ曰七三けるハ子七四よ爾七五ハ常七六よ我七七と共七八  
 ヨ在七九また我所有八十ハ皆八一あん八二ぢの屬八三あり八四爾八五の弟八六死八七て復生八八う

じあひて復得たるが故よ我儕喜て樂むハ當然の事なり  
第十一回 イエス又その弟子よ曰けるハ或富る人よ操會者  
ありけるが主の所有を耗しゝと主人へ訴らる二主人操會者  
者を呼て曰けるハ爾よ就て我きゝたる事ハ何ぞや今後ふ  
んぢを操會者と爲えざれば其會計たる條件を我よ辨よ三  
操會者みづから意るハ主人わが操會を奪ふば何を爲ん我  
鋤を執にハ力あく施を乞ハ恥かじゝ四われ操會を奪れん  
時ハ是等の家よ迎らるべき所爲を知りとて五遂よ主人の  
負債人を悉く召て其首の者よ曰けるハ爾わが主よ負債ふ  
よほある乎六答ていふ油百斗あり彼よ曰けるハ爾の券  
書を取いうき坐して五十と書よ七又一人よ曰けるハ爾の

負債幾何あるや答ていふ小麥百斛あり彼よ曰けるハ爾の券書を取て八十と書よハ主人うの所爲の巧あるよりて此不義なる操會者を譽たり夫この世の子輩ハ此世よ於ハ光の子輩よりも尤も巧あり九我なんぢらよ告ん不義の財を以て已が友を得よ此ハ乞からん時かれら爾を永遠宅よ接んが爲あり小事よ忠き者ハ大事にも忠く小事よ忠からんがからきは誰か眞の財を爾曹よ託んや爾曹もし人の所有を爾よ與んや一人の僕ハ有ふ不義ふらば誰か爾の所有を爾よ與んや二人の主人よ事ること能き蓋これを惡かれを愛じ或ハ此を重んじ彼を輕んせれば也あんぢら神と財よ兼事ること

## 新約全書

ルカでん第十六章

自十四至廿二節

九十六

能あたは 憲十四 懲上 ふかき バリサイの人々此事を聞てイエスを嘲哂十四  
 たり十五 イエス 彼等かれら 曰いひ けるハ爾曹なんぢらハ人々の前まへより自己みづからを義ぎ  
 とする者ものあり然されども神かみハ爾曹なんぢらの心こころを知り夫人うおの榮たふ所ところの  
 者ものハ神かみの前まへより惡にくまる者ものなり十六 律法ひききてと預言者よげんしやハヨハ子ままで  
 あり其そののち神かみの國くにハ宣傳のべつたへる皆用みな力つとめて之これ入いんと爲するあり  
 十七十七 天地てんぢの廢あつたるハ律法りつがの一畫いつかずの廢あつたるよりも易やすし十八 其妻うのつま  
 婦めを娶める者ものも姦淫けんいんを行めり十九 爰こゝは姦淫けんいんを行めふあり二十 亦またラザロラザロと云いふ貧者ひじきものあり甚いたく  
 細布ほりきぬを衣きて日々奢樂ちうりたのめり二十一 爰こゝは富まる人ひとあり紫袍むらさきと  
 腫物あゆうを患やみて富まる人の門もんより置おきれ二十二 其案うのより落ちつる餘屑うりごにて養やな  
 はれんと欲ぞへり又また大きたりて其腫物あゆうを舐なぶ二十三 貧者ひじきもの死あたれは二十四

かれらが此苦の所よ來ざる爲よラザロを證據よ爲しめよ  
 二九 アブラハム曰けるい彼等にハモーセと預言者あれは之  
 ュ往者あらば悔改べし三十ことへ  
 ュ聽べし答けるハ然ち父アブラハムよもし死より彼等  
 預言者よ聽きは縱ひ死より甦る者ありども其勸を受ける  
 べし

一日よ七次あんちよ對われ悔と曰は免すべし○五使徒主  
 曹よ從ふべし我儕よ信を益せよ六主いひけるハ爾曹もし芥  
 種一粒ほどの信あらば此桑樹よ拔て海よ植れと曰とも爾  
 曹よ従たがひ種一粒ほどの信あらば此桑樹よ拔て海よ植れと曰とも爾  
 らんよ彼田より歸たる時亟かよ往て食よ就といふ者あら  
 ん乎かつて曰きや我食を備わが飲食をはるまで帶を束わ  
 れよ事て後あんち飲食すべしと僕主人の命せし事よ從  
 へばとて主人かれよ謝すべきか然じと我ハ意り十斯は亦  
 あんちら命せられし事をみあ行たる時も我儕ハ無益の僕  
 あすべき事を行たるありと謂○十一イエスエルサレムよ往  
 ときサマリアとガリラヤの中を經十二ある村よ入しどき十三

かれらが此苦の所よ來ざる爲よラザロを證據よ爲しめよ  
 二九 ア布拉ハム曰けるい彼等にハモーセと預言者あれは之  
 ュ往者あらば悔改べし三十ことへ  
 ュ聽べし答けるハ然ち父アブラハムよもし死より彼等  
 預言者よ聽きは縱ひ死より甦る者ありども其勸を受ける  
 べし

第十章イエス弟子よ曰けるハ蹠さるゝ事かあらま來ら  
 ん其を來らす者ハ禍ある哉ニこの小子の一人を蹠するよ  
 りハ磨石を頸よ懸られて海よ投入られんこと其人の爲よ  
 宜るべし自己を謹慎よ若兄弟あんちよ罪を犯さば之を  
 諫よ彼もし悔ふは免せ四もし一日よ七次罪を兩よ犯して  
 五使徒主  
 らんよ彼田より歸たる時亟かよ往て食よ就といふ者あら  
 ん乎かつて曰きや我食を備わが飲食をはるまで帶を束わ  
 れよ事て後あんち飲食すべしと僕主人の命せし事よ從  
 へばとて主人かれよ謝べきか然じと我ハ意り十斯は亦  
 あんちら命せられし事をみあ行たる時も我儕ハ無益の僕  
 あすべき事を行たるありと謂○十一イエスエルサレムよ往  
 ときサマリアとガリラヤの中を經十二ある村よ入しどき十三

新約全書

るかでん第十七章 自十三至廿一節

百

衷よ在また弟子よ曰けるハ爾曹人の子の一日を見たく  
欲ふ日きたらん然とも見ざるべし三人々なんぢらよ此よ  
見よ彼よ見よと曰ん然とも往あかれ從ふ勿れ二四うれ電光  
の天の彼處より閃き天の此處よ光が如く人の子も其日よ  
如此あるべし二五然も人の子かあらま先おほくの苦を受ま  
た此世の人よ棄られん二六ノアの時よ有し如く人の子の時  
にも然あるべし即ちノア方舟よ入りひまで衆人食飲嫁  
娶ふと爲たりしが洪水きたりて彼等を滅せり二七また又口ト  
時にも如此ありき衆人食飲貿易樹藝構造あと爲たりしよ  
口トソドムより出し日天より火と硫磺を雨せて從等を  
みあ滅せり三十ひき人の子の顯るゝ日にも亦かく有べし三  
一五

人の癡者ありて彼よあひ遙ニ立て聲を揚いひけるハ  
師イエスよ我儕を矜恤たまヘ  
往て己を祭司よ見せよ彼等ゆく間ニ潔られたり  
人己が醫されたるを見て返來り大聲ニ神を榮め  
の足下ニ俯伏て謝せり彼ハサマリア人あり  
曰けるハ潔られむ者ハ十人ニ非や其九人ハ何處ニ在カ  
この異邦人の外ニ神ニ榮を歸せんとて返たる者あらざる  
乎十九また彼よ曰けるハ起て往あんちの信仰あんちを救り  
二十神の國ニ何の時きたる乎とパリサイの人よ問れければ  
イエス答て曰けるハ神の國ニ顯れて來ものニ非也此ニ  
視よ彼よ視よ人の言べき者にも非也夫神の國ニ爾曹の

にハ人屋上ニ在は其器具室ニ在ども之を取んとて下アカ  
れ亦田畠にある者も同く歸なけれ 三三 | ロトの妻を憶ヘ 三三  
う其生命を救んどする者ハ之を失ひ若うの生命を失ハん  
者ハ之を存べし 三四 我あんぢらニ告ん其夜ふたり同床ニ在  
んヨ一人ハ執れ一人ハ遣さるべし 三五 ふたりの婦とニ磨ひ  
き居んヨ一人ハ執れ一人ハ遣さるべし 三六 カレラ答て曰け  
き居んヨ有や彼等ニ日けるハ屍の在ニころニ  
ハ鷹あつまらん  
第十八箇 イエスまた人の恒ニ祈禱して沮喪すモじき爲ニ  
譬を彼等ニ語けるハ ニあるまちニ或邑ニ神を畏キ人を散はざる裁判  
人ありけるが 三其邑ニ嫠婦ありて我を我仇より救たまへ

二次斷食し又すべて獲ものく十分の一を獻たり稅吏は遠よ立て天を乞仰ぎ見其胸を拊て神よ罪人ある我を隣み給と曰り十四我あんちらよ告ん此人ハ彼人よりハ義と爲れて家よ歸たり夫すべて自己を高る者ハ卑られ自己を卑す者ハ高らるべし○十五イエスよ按られんがた大人々嬰孩をよを携來りしよ弟子たち見て之を責たり十六イエス嬰孩をよび弟子よ曰けるハ嬰孩を我よ來せよ彼等を禁る勿れ神の國よ居者ハ是の如き者あり十七誠よ爾曹よ告ん凡そ嬰孩の如よ神の國を承きる者ハ之よ入ことを得ざる也○十八或宰乎十九イエス彼よ曰けるハ善師よ永生を嗣ためよ我あにを行べきとふて曰けるハ善と稱や一の外よ善者

ハなし即ち神あり二千いまゆ  
誠ハ爾が知ところなり姦淫する勿れ  
殺ふかれ竊あかれいつはりのあか  
三答けるハ是みな我幼よわがをさなき  
然は天よ於て財あらん而して來り我よ從へ  
て曰けるハ爾なほ一を虧うの所有を悉く售て貧者よ施せ  
る者なりしかば之を聞いて甚く憂たり二四  
しを見て曰けるハ富る者の神の國よ入ひ如何よ難か  
富る者の神の國よ入より駱駝の針の孔を穿へ却て易し  
之を聞る者よ曰けるハ然は誰か救を受べき乎二五  
けの爲得さる所ハ神の爲得ところ也二六  
日けるハ我儕一切を捨て爾よ從へり二七  
新約全書 るかでん第十八章 自二十至廿九節

ミリ曰けるハダビデの裔イエスよ我を矜恤たまへ  
ち行者とも黙止と之を斥れとも愈ダビデの裔よ我を矜恤  
たまへと呼れり四十イエス立止り彼を携來と命ぜ醫者ちか  
よりければ四一イエス彼よ問けるハ爾われよ何を爲れんと  
欲ふや答けるハ主よ見ふん事を欲ふ四二イエス彼よ曰ける  
ハ見ことを受よ爾の信ふんちを救へり彼やがて見え神  
を榮てイエスよ從ひ民みふ之を見て神を讚美たり  
イエスエリコよ入て經行ときニザアカイと云る  
人あり稅吏の長にて富る者あり三イエスハ如何ある人ふ  
るか見んど欲とも身量ひくければ大衆あるよ因て見こと  
を得矣四かれを見んとて趨ゆき桑樹よ升れりイエスうの道

ハ誠ニ爾曹ニ告ニ凡テ神ノ國ノ爲ニ家あるヒハ父母ある  
ヒハ兄弟あるヒハ妻あるヒハ兒女を捨る者ハ三十ニテ  
幾倍をうけ來世ニハ永生を受ける者あし○三イエス十  
ニ弟子を携ひて之ヨ日けるハ我儕エルサレムニ上る人  
ニ子ニ就て預言者の錄されし事ハみあ應らるべし夫人  
ニ子ハ異邦人ニ解され戯弄凌辱られ唾せらるべし且か  
れ鞭撻て之を殺さん又第三日ヨ甦るべし弟子この  
語を少も達せ亦この言ふ事かれらニ隠たり亦その語き  
言を知りき○三五イエスエリコニ近よれる時ある瞽者道  
の旁ニ坐して乞たりしが大衆の過を聞いて此ハ何事ぞと  
曰ければ人々ナザレのイエスの過ありと告二八瞽者よは

を過んとする故あり  
イエス此よ來り仰て彼を見いひけるハザアカイよ速ぎ下き我今日からキ爾の家よ宿らん  
六彼いうき下り喜てイエスを迎たり七ひきぐ人を見てみふ怨言いひけるハ彼ハ往て罪ある人の客と爲れりハザア  
カイ起て主よ我所有の半を貧者よ施さん若われ誣訟て人より取たる所あらば四倍にして之を償のふべし  
イエス彼よ曰けるハ今日この家すくへるゝことを得たり蓋この人もアブラハムの裔ふれば也うれ人の子ハ喪ひじ者を尋て救ん爲よ來れり十一衆人この言を聞る時また譬を設て日り此ハエルサレムよ近かつ衆人神の國たゞちよ顯明る  
べしと意が故あり十二ある貴者みづから領地を受て歸んど

て遠國へ往とき十三十人の僕を召て彼等よ金十斤を予て日  
けるハ我來まで商賣せよ十四うの國民かれを憾て後より使  
を遣し曰けるハ我儕この人を王とする事を欲す十五りやうち  
受けて歸し時おのゝ商賣して幾何の利を得たり十六はじめ  
とて金を予おきたる僕等を召と命じぬ十七主人いひ  
て曰けるハ爾の小者よ忠あれば十の邑を宰さるべし  
けるハ爾善僕よ爾ハ小者よ忠あれば十の邑を宰さるべし  
十八また次の一人きたりて曰けるハ主よ爾の一斤ハ五斤の  
利を得たり十九主人いひけるハ爾も五の邑を宰さるべし  
また一人きたりて曰けるハ主よ爾の一斤ハ此よ在われ手  
巾よ裏て藏置たりき三蓋ふんぢ嚴人あるが故よ我おうれ

たり爾置ざる者をとり播さる者をかる人なきはあり  
人いひけるハ惡僕よ我ふんちの口より因て爾を鞠べし爾わ  
れハ嚴者よて置さる者を取まかざる者を獲と知然よ何  
ぞ我來るとき本と利を得んが爲よ我金を兌錢肆よ預ざり  
じや二四遂よ傍よ立る者よ曰けるハ此人の一斤を取りて十斤  
有る者よ予よ二五衆人主人よ曰けるハ主よ其人すでよ十斤  
を有り二六主人いひけるハ我なんぢらよ告ん夫有者ハ予ら  
れ不有者ハ其所有ものまでも取るべし二七且わが敵すある  
ち我支配を欲ざる者を此よ曳來りて我前よ誅せ二八イエス  
此事を言しおち衆人よ先だちてエルサレムよ上れり二九橄  
欖と名る山よ靠るベツバゲとベタニヤよ近づける時うの

弟二子二人を遣さんとて曰けるハ對面の村より彼處より入は人の未だ乗さる所の繫たる驢駒より遇べし其を解て牽來れ三もし誰か爾曹よ何ゆ若解やと問者あらば如此こたふべし主の用あり遣さきたる者往ければ果て其語たまへる如く遇ぬ三かれら驢駒を解とき其主等かれらよ何ぞ驢駒を解やと曰しかば答て主の用ありと曰て之をイエスよ牽來り己が衣を驢駒より置イエスを其上より乗ス往けるとき衆人うの衣を路上より布りイエスエルサレムよ近づき橄榄山を下らんとする時大衆の弟子みる喜び其見し所の奇跡ある凡の能よ因て大聲よ神を讀て曰ける三八主の名より託て来る王ハ福あり天よ於てハ和平よ至上

學者民の尊者とも彼を殺んど謀とも民みる心を傾けて其の  
教を聽るが故も爲べき方を知ざりき  
**第二十章** 一日イエス殿にて民を教へ福音を宣し祭司の  
長學者長老共よ近よりイエスよ語て曰けるハニなにの權威  
を以て此事を行か誰この權威を予たるか我儕よ告よ三答  
て曰けるハ我も一言ふんぢらよ問ん且われよ告よ四ヨハ  
子のバプテスマハ天よりか人よりか五彼等たがひよ曰け  
るハ若天よりと云は然は何故かれを信せざる乎と曰ん六  
もし人よりと云は民ミなヨハ子を預言者と信せられは我儕  
を石にて擊んとて遂よ答て奚よりなるか知せど曰りへ  
イエス彼等よ曰けるハ我も亦ふの權威を以て之を行か

所にハ榮光あるべし  
スヨ曰けるハ師ヨ爾の弟子を責めよ  
ふんぢらヨ告ん此輩もし黙止  
けるとき城中を見て之が爲よ哭いひけるハ  
も今この爾の日ヨ於て爾の平安ヨ關れる事を知は福ある  
よ今あんぢの目ヨ隠たり  
き四方より圍攻爾と其中ある兒女を擊滅し石をも石の  
上ヨ遣ざる日きたらん是あんぢ其眷顧たまふの時を知さ  
れは也  
彼等ヨ曰けるハ我室ハ祈禱の殿ありと錄されたるヨ爾曹  
これを盜の巣と爲り  
イエス日々ヨ殿にて教ふ祭司の長

聞て曰けるハ然ハ有され  
人の棄たる石是こう屋隅の首石  
や此石の上よ墮るものハ壞この石上  
るべし祭司の長學者等うの己を指て此  
この時イエスを執へんと爲しかど民を畏  
ら義人と偽れる間者を遣せり就てイエス  
よ我儕あんちの言ところ教るところ正く  
以て神の道を教るを知る三われら稅をカ  
や否イエスうの詭譎あるを知て曰けるハ  
二四デナリを我よ見せよ此像と號ハ誰ある  
か答てカイザ

を爾曹よ告じ○即ち此譬を民よ語れり或人葡萄園をつ  
くり農夫よ租與て久しう他國へ往しが期いたりければ  
葡萄園の果を受取ん爲よ僕を農夫の所よ遣しけるよ農夫  
等これを撲たきて徒く返せたり十一また他の僕を遣し  
よ之をも撲たき辱しめて徒く返せたり十二又三次僕を遣  
しゝよ之をも傷けて逐出しければ十三葡萄園の主曰けるハ  
我いかよ爲ん我愛子を遣すべし之を見は恭敬あらん十四農  
夫とも之を見て互よ議いひけるハ此ハ嗣子あり率かれを  
殺さん業ハ我儕の所有よなる可とて十五彼を葡萄園の外よ  
出して殺せり然ば葡萄園の主いかよ彼等を處べき乎十六か  
れ來して此農夫等を滅し葡萄園を他人よ託べし人々を

のハ娶嫁ことふし是また死ること能ざるが故あり蓋天  
の使と伴く復生の子にて神の子されは也さて死し者の  
甦ることよ就てハモ一セ棘中の篇よ主をアブラハムの神  
イサクの神ヤコブの神と稱て之を明白せり三八  
たる者の神よ非き生る者の神あり蓋神の前にハ皆生る者  
されは也三九うの學者等こたへ曰けるハ師よ善いへり四〇  
のち敢てイエスよ間者ふかりき○四一  
ハ人々如何あれはキリストをダビデの裔と言や四二  
自ら詩の篇よ主わが主よ曰けるハ我あんちの敵を爾の足  
發ど爲まで我が右よ坐すべしと云り四五  
と稱たれは如何で其裔あらん乎四五  
民みあ之を聽る時うの

ルありと曰イエス曰けるハ然はカイザルの物ハカイザ  
ルよ納め神の物ハ神よ納よされら民の前よ其言を執得  
き且うの答を奇ど意て默然たり○甦る事あしと言サド  
カイの人きたりてイエスよ問けるハ師よモ一セ我儕よ  
書遺ハ若人の兄弟妻あり子あくして死は兄弟うの妻を娶  
り子を生て其嗣を繼すべしと然は七人の兄弟あらんよ  
長子妻を娶り子あくして死は三十第二の者この婦を娶り子あ  
くして死は第三も之を娶り七人同く之を娶り子あくして  
死は三二終よ婦も死たり三然は七人ともよ此婦を妻とせし故  
よ逃りたる時ハ誰の妻と爲べき乎三五イエス答て曰けるハ  
此世の子ハ娶嫁ことあり彼世よ入り死より復生よ足も

弟子よいひけるハ長服を衣て遊行ことを好み市上にて人の間安會堂の高座筵間の上座を喜ぶ學者を慎めよ等ハ嫠婦の家を呑いつはりて長祈をあす罪せらるゝこと尤も重し

**四六** **イエス** 目をあけ富る人々の捐輸を賽錢箱より見るを見るニ又ある貪き嫠婦のレブタ二を投たるを見て曰けるハ三われ誠よ爾曹よ告ん此貧き嫠ハ衆の者よりも多く投たり四蓋かれらハ皆その羨餘ある所より捐輸を神よさくけ此婦ハ不足ところより其所有ある所盡く獻たれば也〇五また或人殿の美石と奉納物を以て修飾ることを語しよ六イエス曰くるハ爾曹の見る所のもの石を石の上にも遺

キ地七圮八さる日いたらん彼等とふて曰けるハ師よ何の時この事あらん正よ此の事の來らん時ハ如何ある兆ある乎やほくの者わが名を冒きたり我ハキリストあり時ハ近よれり云然爾曹從ふ勿き九戰亂九を聞とき懼る勿れ此等の事の先よ有ハ止を得ること也然と末期十ハ未だ速あらき又いひけるハ民ハ民をせめ國ハ國を攻十一各處よ天より現るべし此事より先よ人や爾曹を執へ苦め會堂大ある地震饑饉疫病おこり且おそるべき事と大ある休徵および獄十四よ解し我名の爲よ王および侯の前よ曳往べし然とも爾曹十五が此事よ遇ハ證十六と爲あり故よ爾曹十七まづ何を

對こたへんと思慮むもひはかるまじき事を心こころよ定さだめよ蓋ふたすべて爾曹なんぢらよ仇あだする  
者の辨駁べんほまた敵ちとる對たいことを爲すえさるべき口くちと智ちとを我われあん  
ちらよ賜あたへん十六じゅうろく又なんぢら父母ちみは、きやうだい、あん兄弟せき親戚しんき朋友ゆうび等とうより解わかさ  
れ且かつふんぢらの中うちある者ものハ殺ころさるべし十七じゅうしち爾曹なんぢらわが名なの爲ため  
よ人々ひとびとよ憾ににくれん十八じゅうは然されとも爾曹なんぢらの首髮かみのけ一縷ひとすぢも喪うなハじ十九じゅうくあん  
ちら忍耐たへあひて其その生命みのりを全まつたうせよ二十じゅうあんぢら軍勢ぐんせいよエルサレ  
ムの圓おひこるゝを見みあは其その亡ぼろびちかきよ在あると知し二十一じゅうの時ときユダヤ  
よ在ある者ものハ山やまよ逃のぞよエルサレムエルサレムよ在ある者ものハ二十二じゅう三さんエルサレムエルサレムよ入いあかれ三十三じゅうさんこれ刑罰けいばの日ひにして錄るされたる  
事ことのミみあ應そけらるゝ日ひなり三十四じゅうよ其その日にハ孕はらみたる者ものと哺乳兒ちのみこあ  
る者ものハ禍わぎふる哉かなこれ地ぢよ大おほある災わぎありて怒いかりこの民みんよ及およぶべ

、  
けれども爾曹なんぢらの首髮かみのけ一縷ひとすぢも喪うなハじ、  
あんぢら父母ちみは、きやうだい、あん兄弟せき親戚しんき朋友ゆうび等とうより解わかさ  
れ且かつふんぢらの中うちある者ものハ殺ころさるべし十七じゅうしち爾曹なんぢらわが名なの爲ため  
よ人々ひとびとよ憾ににくれん十八じゅうは然されとも爾曹なんぢらの首髮かみのけ一縷ひとすぢも喪うなハじ、  
あんぢら忍耐たへあひて其その生命みのりを全まつたうせよ二十じゅうあんぢら軍勢ぐんせいよエルサレ  
ムの圓おひこるゝを見みあは其その亡ぼろびちかきよ在あると知し二十一じゅうの時ときユダヤ  
よ在ある者ものハ山やまよ逃のぞよエルサレムエルサレムよ在ある者ものハ二十二じゅう三さんエルサレムエルサレムよ入いあかれ三十三じゅうさんこれ刑罰けいばの日ひにして錄るされたる  
事ことのミみあ應そけらるゝ日ひなり三十四じゅうよ其その日にハ孕はらみたる者ものと哺乳兒ちのみこあ  
る者ものハ禍わぎふる哉かなこれ地ぢよ大おほある災わぎありて怒いかりこの民みんよ及およぶべ

新約全書 るかでん第廿二章 自卅三至廿二章四節

百廿二

五 彼等喜びて銀子を予んと約す ユダ諾ひて  
六 人々の居ざる時ヨイエスを付さんと機を窺へり〇 さて  
七 除醜節ある逾越の羔を殺べき日ヨありければ  
八 イエス  
九 トヨハ子を遣さんとて曰けるハ往て我儕が食せん  
十 カレラ答けるハ何處ヨ之を備んと爲か  
十一 イエス曰けるハ城下ヨ入は水を盛たる瓶を擎る人あん  
十二 カレ云われ弟子ト共ヨ逾越を食すべき客房ハ何處ヨ在  
十三 やと曰然すれば彼うあへたる大ある樓房を示すべし其  
十四 處ヨ備よ彼等ゆきてイエスの日給ひたる如く遇じかば  
十五 逾越の備を爲り時至ければイエス食ヨ就ぬ又使徒も共

よ就たりアキタリ十五 イエス彼等カレラよ曰けるハ我苦難を受アカルる先モトよ爾曹ナンヂラ

と共アザムよ此逾越アツヤクを食する事コトと大カミイよ願ハシガへりハシガ十六 われ爾曹ナンヂラよ告ツケん

之カナを神の國カニよ成アカルまでハ復アタマヘこれを食せシテじジ十七 イエス杯サカヅキをとり

謝アヤじて曰アヒけるハ之コレを取アゲて互タガヒよ分ワカハよ十八 われあんぢらナンヂラよ告ツケん神カミ

の國カニの來キテるまでハ葡萄ブドウより造アフリしものを飲アガハじジ十九 マタパンマタバンを

どり謝アヤじて擊アキかれらハタハタよ予アタヘて曰アヒけるハ此コレハ爾曹ナンヂラの爲アハタフよ予アタフる

わが身體カラニあり我ガを記メん爲アハタフよ此コレを行アガハ二十 また食アガハしてのち杯サカヅキを

とアタヘり日アヒけるハ此コレ杯サカヅキハ爾曹ナンヂラの爲アハタフよ流アガハを我血アガハにして立アガハる所アガハ二十一 また食アガハしてのち杯サカヅキを

新約アハタフあり三夫サタムわれを賣アハタフす者の手アハタフハ我ガと共アハタフよ案アヒにあり三人サンヒン

の子ハ果ハタハタて定アハタムられたる如アハタハく逝アハタハん然アハタハとも人の子ハを賣アハタフす人ハ二十二 また食アガハしてのち杯サカヅキを

禍アハタハある哉ハタハタ三かれら此事ハタハタを爲アハタフん者ハハ誰アハタハある乎アハタハと互タガヒよ問アハタフ及アハタフ二十三 また食アガハしてのち杯サカヅキを

また彼等カレラの中カニにて長アキタハたる者ハハ誰アハタハあるかと互アハタハの争アハタハありきアハタハ二十五

イエス彼等カレラよ曰アヒけるハ異邦イハビン人の王ハハ其民ハタハタを支配アハタフす又アハタフその

上アバウよ權カガハを秉アハタム者ハ恩アハタハを施アハタフす者ハと稱アハタムらるアハタハ二十六 され

すべからき爾曹ナンヂラのうち大アハタハなる者ハ幼アハタハが如アハタハく首アハタハたる者ハ役アハタハ二十七 され

る者の如アハタハあるべしアハタハ食アハタハよ就アハタフる者ハと事アハタハる者ハと孰アハタハか大アハタハなる者ハ役アハタハ二十八 され

よ就アハタフる者ハあらばアハタハ然アハタハとも我ガハ爾曹ナンヂラの中アハタハよ事アハタハる者ハの如アハタハしアハタハ元アハタハ

わが患難アハタハよ於アハタハて我ガと借アハタフよ居アハタムし者ハ爾曹ナンヂラの中アハタハよ事アハタハる者ハの如アハタハしアハタハ元アハタハ

任アハタフせし如アハタハく我ガも爾曹ナンヂラよ國アハタハを任アハタフせしアハタハ元アハタハ

を鞠アハタハんが爲アハタフあり三主アハタハまた曰アヒけるハシモンアハタハよシモンアハタハよサタアハタハ元アハタハ

爾アハタハを索アハタフて夢アハタハの如アハタハく簇アハタハんとす三三アハタハ然アハタハとも爾アハタハの信アハタハ伸アハタフ絕アハタフさるや

新約全書 終焉第廿二章 自卅三至卅九節

百廿六

う爾の爲ひ祈れり爾歸ん時うの兄弟を堅せよ  
けるハ主よ我獄よまでも爾と共よ往んと心を定たり  
エス曰けるハベテロ我なんちよ告ん今日鶏あかざる前よ  
爾三次われを識むと言ん○又かれらよ曰けるハ我財布  
旅袋履をも帶せで爾曹を遣しとき事の缺たること有し  
や答けるハ無りき三六イエス從等よ曰けるハ今ハ財布ある  
者ハ之をどれ旅袋ある者も亦然り此等を有ぬ者ハ衣服を  
賣て刀を買へし三七われなんちらよ告ん彼ハ罪人の中よ算ら  
れて有しと錄されたる此言ハ我よ於て應らるべし蓋われ  
を指たる事ハ必定成らる可れば也三八かれら曰けるハ主見  
よ此よ二の刀ありイエス彼等よ曰けるハ足り三九イエス出  
て例の如く橄欖の山よ往けるよ其弟子も從へり四十うのところ  
至て彼等よ曰けるハ誘惑よ入ざるやう祈き四一イエス彼等  
を離て石の投らるゝほど隔り曲膝いのり曰けるハ四二ちよ父よ  
若し聖旨よ背は此杯を我より離ち給へ然とも我意よ非た  
を聖旨のまゝよ成たまへ四三使者天より彼よ現れて健壯を  
添ぬ四四イエス痛く哀み切よ祈れり其汗の血の滴りの如く  
地よ下たり四五いのり祈禱より起て弟子よ來り彼等が憂て寝れる  
を見曰けるハ何ぞ寝るや起て誘惑よ入ざるやう祈き四七  
如此いへるとき許多の人々きたる又十二の一なるユダ  
と云ふ者其よ先ちてイエスよ接吻せんと近よれり四八  
日けるハユダ爾ハ接吻をもて人の子を賣す乎四九うの側

新約全書 終焉第廿二章 自卅三至卅九節

自四十一至四十九節

百廿七

て例の如く橄欖の山よ往けるよ其弟子も從へり四十うのところ  
至て彼等よ曰けるハ誘惑よ入ざるやう祈き四一イエス彼等  
を離て石の投らるゝほど隔り曲膝いのり曰けるハ四二ちよ父よ  
若し聖旨よ背は此杯を我より離ち給へ然とも我意よ非た  
を聖旨のまゝよ成たまへ四三使者天より彼よ現れて健壯を  
添ぬ四四イエス痛く哀み切よ祈れり其汗の血の滴りの如く  
地よ下たり四五いのり祈禱より起て弟子よ來り彼等が憂て寝れる  
を見曰けるハ何ぞ寝るや起て誘惑よ入ざるやう祈き四七  
如此いへるとき許多の人々きたる又十二の一なるユダ  
と云ふ者其よ先ちてイエスよ接吻せんと近よれり四八  
日けるハユダ爾ハ接吻をもて人の子を賣す乎四九うの側

## 新約全書

## 自五十八至五十七節

百廿八

居たる者とも事の及んとするを見て曰けるハ主よ我儕  
刀をもて擊べき乎か五十のうち其中の一人祭司の長の僕を擊て其右  
耳を削落せり

醫したり五二イエス此よ來し祭司の長殿司および長老等より  
日ひけるハ爾曹刀と棒とを持來り強盜よ當が如する乎五三わ  
れ日々よ爾曹と偕よ殿よ在し時ハ我よ手を措こと無りき  
然るよ今ハ爾曹の時かつ黑暗の勢なり五四かれら彼等イエスを執  
へ曳て祭司の長の家よ携往りベテロ遙よ從ひぬ五五人々中  
庭のうちよ火を焼て同よ坐しければベテロも其中よ坐し  
たり五六或婢かれが火の傍よ坐せるを見これを熟視て曰け  
るハ此人も彼と偕よ在し五七ベテロ承きして女よ我これを

識きと云り五八頃刻して他の人も亦見て曰けるハ爾も彼等  
の一入ありベテロ曰けるハ人よ我ハ然ゆ約う一時ほ  
過て復ほかの人方言けるハ誠よ此人も彼と偕よ在し是ガ  
リラヤの人あれは也六一ベテロ曰けるハ人よ我あんちの言  
どころを識きと言も果ゆ忽ち鶏鳴段六二主身を回してベテ  
ロを見たまへり今日鶏ふく前よ三次われを識きと言んと  
主の曰たまひし言をベテロ憶起し六三外へ出て痛く哭り〇  
口をも嘲弄して彼を撲六四うの目を掩ひ  
事を言ひて之を謂れり六五また多端の  
間て曰けるハ爾を撲者ハ誰あるか預言せよ六六平旦よ民の長老祭司の長學者とも  
集りてイエスを議所よ曳往て六七ひけるハ爾もしキリ

トならば我儕よ告よイエス曰けるハ假令われ爾曹よ言ど  
も信せざるべし又たとひ我なんぢらよ詰とも答ざるべ  
し今より後人の子ハ大權ある神の右よ坐せん七十みな  
けるハ然は爾ハ神の子なるかイエス曰けるハ爾曹が言る  
如く我ハ是あり七彼等いひけるハ猶證據を須んや我儕み  
づから其口より聞り  
第二十三章衆人みな起てイエスをピラトよ携ゆき之を  
訟いひけるハ我儕この人が民を惑し税をカイザルよ納る  
ことを禁み自ら王なるキリストと稱るを見たり三ピラト  
イエスよ問て曰けるハ爾ハユダヤ人の王あるか答けるハ  
爾が言る如し四ピラト祭司の長等ど衆人よ曰けるハ我こ

司の長有司および民等を呼あつめて曰けるハ雨曹この人を我よ携來りて民を亂したる者なりと爲せり我あんぢらが訟る所を以て雨曹の前よ鞠とも其罪あるを見定ヘロデも亦然り雨曹をヘロデよ遣せば彼もイエスが行事の死罪よ當を見ざりき故よわれ笞ちて之を釋さんの節期よ必キ一人を釋こと有はあり十八かれ等みあ一齊よはれりて此人を除きバラバを我儕よ釋せと曰彼ハ城下よ一揆を起し人を殺して獄よ入し者あり二千十九かれらに曰しかば三故よピラトハイエスを釋さんと欲ひ復かれらに曰しかば三かれら呼りて之を十字架よ釘よ十字架よ釘よと曰三三

れは答へて釋さんと彼等廻く聲をたてゝ彼を十字架よ釘  
んと言募れり遂ニ彼等と祭司の長の聲勝たり二四  
の求の如く擬て二五かれらが求る一揆を起し人を殺して獄よ  
入たる者を釋し其意よ任せてイエスを付せり二六彼等イエ  
スを曳往とき田間より出來れるクレ子のシモンと云ふ者  
を執へ其よ十字架を負せてイエスよ從ハせたり二七おほく  
および婦等も從ふ婦等ハ彼を哭哀めり二八イエス彼等を顧  
いひけるハエルサレムの女子よ我爲よ哭あかれ惟おのれ  
と己が子の爲よ哭産さる者いまだ孕さるの胎いまだ哺  
せざるの乳ハ福ありと曰ん日きたらん二十九の當時人々山  
て我儕の上よ壓よ陵よ對て我儕を掩へと曰ん三もし青木

にさへ如此あさは枯木ハ如何せられん○ また他ニ二人の罪人をイエスと偕よ死罪に處ハんとて曳往りニ彼等ヲニオンと云る所ヨ至りて此ヨイエス及び罪人を十字架上釘ぬ一人をイエスの右一人を左ヨ置<sup>三四</sup> イエス曰けるハ父よ彼等を赦し給ヘ其爲<sup>ナ</sup>ところを知ざるが故あり彼等鬪<sup>カ</sup>司も亦嘲哂ふて曰けるハ彼ハ他人を救へリ若キリストをしてイエスの衣服を分つ三人々立てイエスを見たり有<sup>カ</sup>の選たる者ならば自己を救べし<sup>三五</sup> 兵卒も亦かれを嘲弄し來り<sup>三六</sup> 又ギリシャロマヘブルの文字にて此ハユダヤ人の王<sup>三七</sup> 王なりと書る罪標を其上ヨ建たり○ 懸られたる罪人の

一人イエスを譏て曰けるハ爾もしキリストならば己と我僻を救へ他の一人こたへて彼を責め曰けるハ爾おあじく罪を受ふがら神を畏きる乎<sup>四一</sup> 我僻ハ當然なり行ことの報を受ふれど此人ハ何も不<sup>ナ</sup>是事ハ行きし也<sup>四二</sup> 斯てイエス曰けるハ誠<sup>ナ</sup>我なんちよ告ん今日あんちハ我と偕よ樂園<sup>ハラダイス</sup> 答<sup>ヒタ</sup>ス<sup>ナ</sup>ヨ曰けるハ爾うの國<sup>カ</sup>ヨ來ん時我を憶たまへ<sup>四三</sup> イエス答<sup>ヒタ</sup>ス<sup>ナ</sup>ヨ曰けるハ爾もしキリストならば己と我<sup>ナ</sup>在べし○ 時約<sup>四四</sup> 二時<sup>ナニ</sup> おろより三時<sup>ナニ</sup> まで遍く地の<sup>ナニ</sup> うへ黑暗<sup>ナニ</sup> ど爲れり<sup>四五</sup> 日光くらみ殿の内の幔真中より裂かれた<sup>ナニ</sup> りイエス大聲<sup>ナニ</sup> ヨ呼り曰けるハ父よ我靈を爾の手<sup>ナニ</sup> ヨ託く如<sup>ナニ</sup> 此いひて氣絶ゆ<sup>四七</sup> 百夫の長この成し事を見て神を崇め<sup>ナニ</sup> 之を觀んとて聚れる衆曰けるハ誠<sup>ナ</sup> 此人ハ義人ありき<sup>四八</sup>

携て墓よ來しよ他の婦等も偕よ來れり二彼等石の墓より  
轉たりしを見て三入ければ主イエスの屍を見ゆ四之が爲  
よ躊躇をりしよ擲る衣服を着たる二人の旁よ立り五か  
れら懼て面を地よ伏ければ其人いひけるハ爾曹何ぞ死れた  
る者の中よ生たる者を尋るや七六彼ハ此よ在て甦りたり彼  
ガリヲヤよ居しどき爾曹よ語て人の子ハ心せ罪ある人の  
手よ付され十字架よ釘られ第三日よ甦る可と云たりしを  
憶起よ彼等うの言を憶いで九墓より歸て此等の事をみ  
ふ十一の弟子ど他の弟子等よ告げ此等の事を使徒よ告た  
る者ハマグダラのマリアヨハンナヤコブの母あるマリア  
よた他よ偕よ在し婦等あり十一使徒うの語れるを虚誕と意

人みる此ありし事等を見て膺を拂て返れり イエスの相  
識の人々およびガリラヤより隨ひし婦とも遠く立て此等  
の事を見たり○ 議員あるヨセフと云る善かつ義ある人  
あり 彼等の評議と行爲を背ハざりき是ハユダヤのアリ  
マタヤの邑の人にて神の國を慕る者あり 此人ピラトよ  
往イエスの屍を乞て之を取下し布にて裹いまだ人を葬  
し事あき石の鑿たる墓は置り 此日ハ備節日あり且安息  
日近き故ガリラヤよりイエスと偕よ來りし婦たち後よ  
隨ひて其墓と屍の置れたる狀を見たり 彼等かへりて香  
物と香膏を備へ置いて誠よ從ひ安息日を休めり

ひて信せば十二 ベテロ起て趨り墓よ往かゞまりて枲布のか  
たよせ在を見て其遇ところの事を奇みつゝ歸れり○十三 當日二人の弟子エルサレムより三里ばかり隔りたるエマヲ  
と云る村よ往けるよ十四 互よ此等の所遇ともを語あへり  
語り論むる時よイエス自ら近きて偕よ往り十五 おたりされ  
目迷されて知ことを得きりき十六 され彼等の  
く互よ哀モ談論ことハ何ぞ乎十七 イエス曰けるハ爾曹行つ  
る者答けるハ爾ハエルサレムの旅人よして獨このおろ有  
し事を知きる乎十九 答けるハ何事ぞや之よ曰けるハナザレ  
のイエスの事あり此人ハ神と萬民の前よ於て行と言よ大  
ふる能ある預言者ありしが二十 祭司の長と有司等かれを死

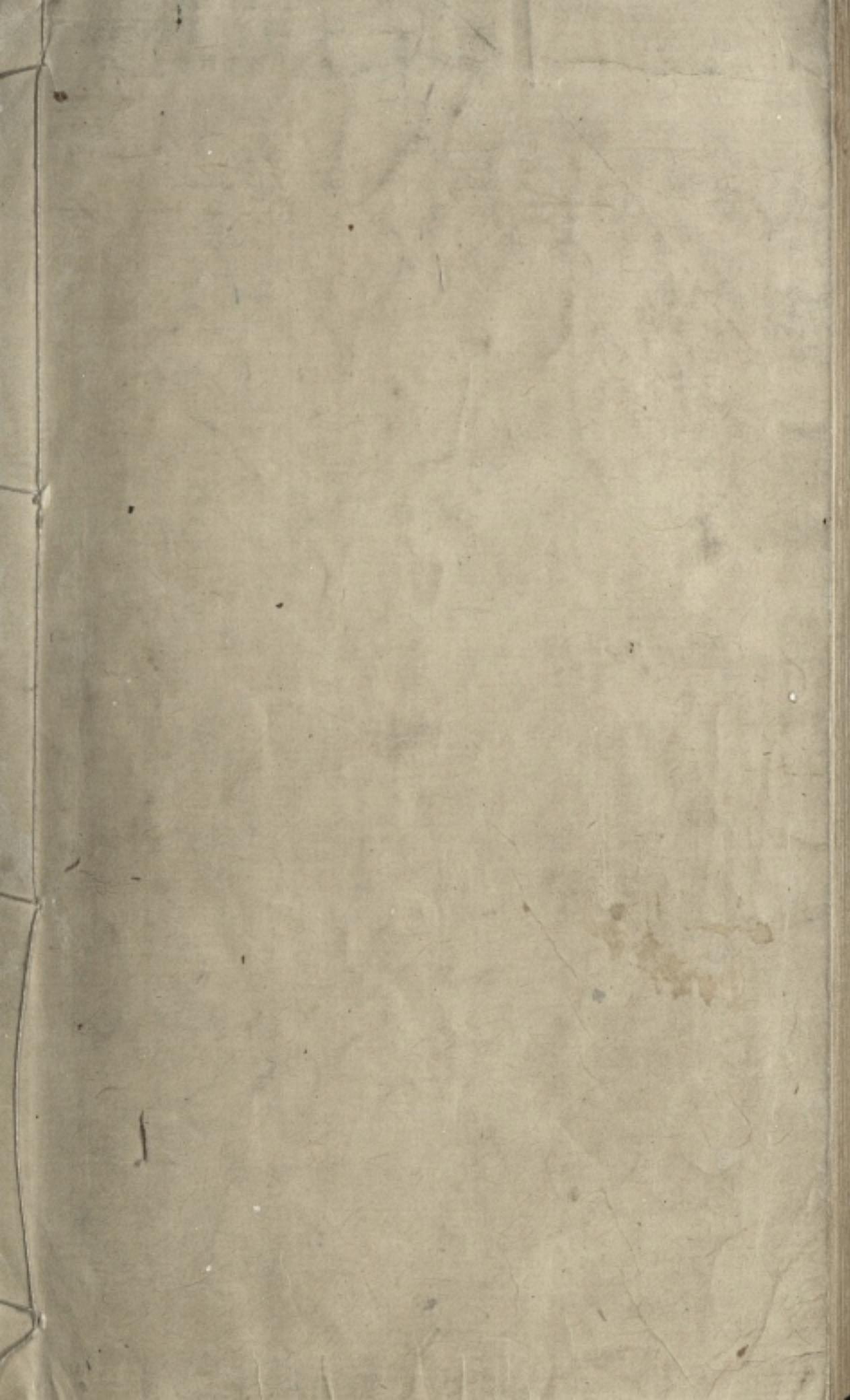
罪よ解して十字架よ釘たり二 我儕イスラエルを贖へん者  
ハ此人ありと望たりし又うれ而已あらば此等の事の成し  
より今日ハ第三日あるよ三 我儕の中ある或婦だち我儕を  
驚駭せり彼等朝はやく墓よ往四 うの屍を見キして來り天  
に偕よ在し者も墓よ往たりと云五 婦の見るを見たりと告六 また我儕を  
せりき一五 イエス曰けるハ預言者の凡て言たる事七 且かれを見  
心の遅き愚ふる者よ一六 キリストハ此等の難を受て其榮光  
よ入べきよ非や一七 故よモ一八 キセより凡の預言者を始ずべて  
の聖書よ於て已よ就ての事ハ解明されたり一九 彼等ゆく所  
の村よ近きけるよ彼ゆき過んと爲る狀をあせば二〇 彼等ゆく所

くめ曰けるハ日景きて暮ニ及ニ我儕ニ偕ニ止れ彼いりて  
止る三十共ニ食ニ就る時パンをとり謝して擊かれらニ予け  
れは三二二人の者の目瞭かニ爲て彼を識り又忽ち其目ニ見  
せ爲り三一彼等たがひニ曰けるハ途間にて我儕ニ語かつ聖  
書を解開ける時われらが心熱しニ非キヤ三三此時かれら起  
てエルサレムニ歸り十一の弟子および同ある人の集り居  
よ過三四うの人等の曰けるハ主實ニ甦リシモンニ現れたり  
て五五二人の者も途間にて所遇とパンを擊たまへるニ因て識  
ふたる事を語れり三六此事を語れる時イエス自ら其中ニ立  
たけるハ爾曹安かれ三七かれら駭き懼れて見ニころの者を  
靈あらんニ意り三八イエス曰けるハ爾曹何ぞ駭くや何ぞ心

事の證人なり四九  
 上より權を授らる五十迄ハエルサレムよ留五十一イエス彼等  
 を導きベタニヤよ至り手を擧て彼等を祝す五十二祝する時か  
 れらを離れ天よ舉五十三恒よ殿五十四彼等これ拜して甚く喜び  
 エルサレムよ歸り五十五彼等これを頌美五十六また祝謝せり  
 アーメン

95-91195

新約全書路加傳福音書終



新約聖書路加傳

明治十四年

四号活字版

米國聖書會社

委宣今訳の活字分冊版。漢字を多く使用して其が  
注目される。從未未知の書。

明治十四年米國聖書會社版に俗語訳可傳がある。

藏板朱印は同一